

松本市海洋教育パイオニアスクールプログラム 令和元年度 体験活動記録集



令和元年度モデル校
松本市立田川小学校
松本市立鎌田小学校
松本市立芳川小学校
松本市立安曇小学校
松本市立波田小学校

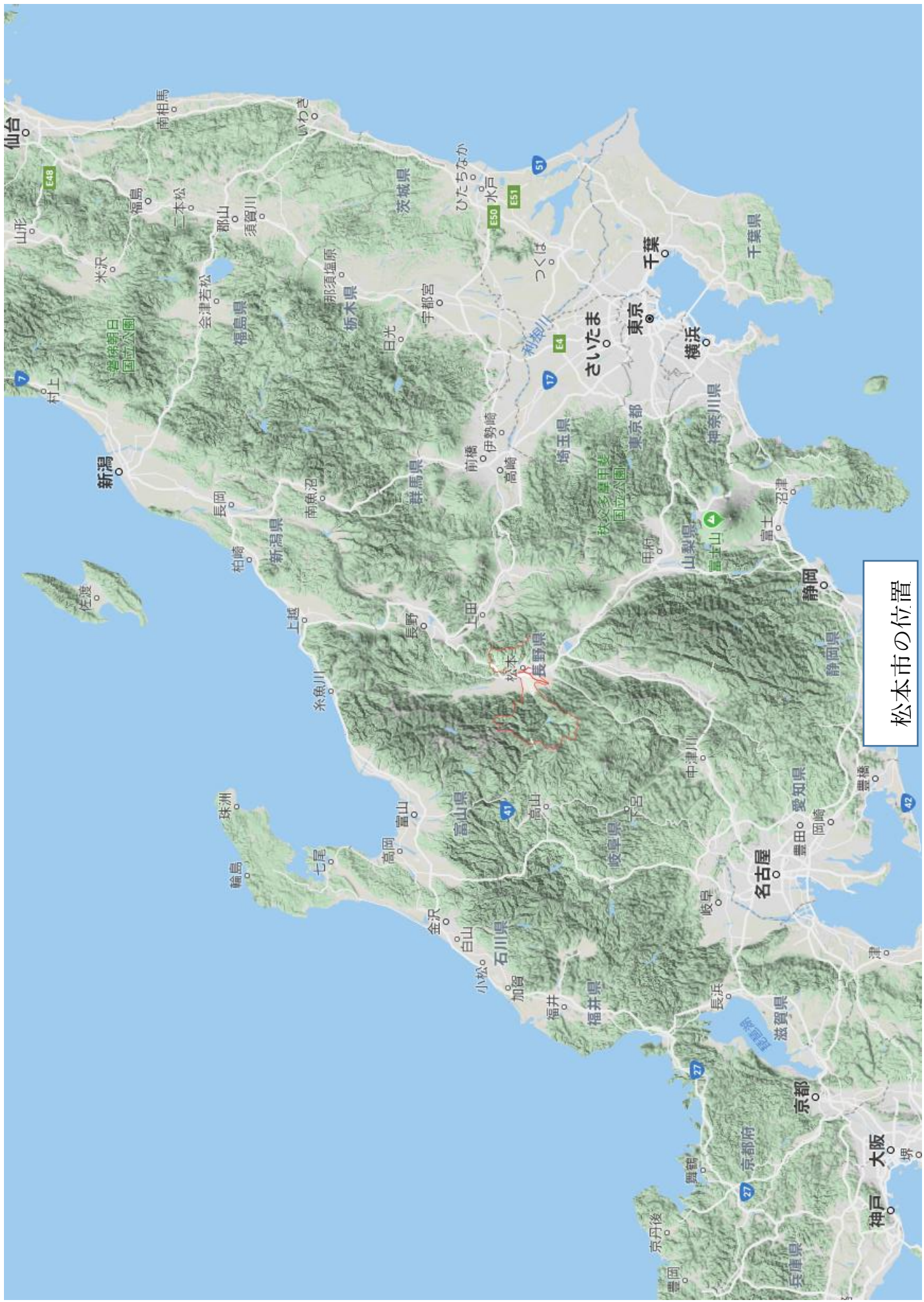


日本 THE NIPPON
財団 FOUNDATION

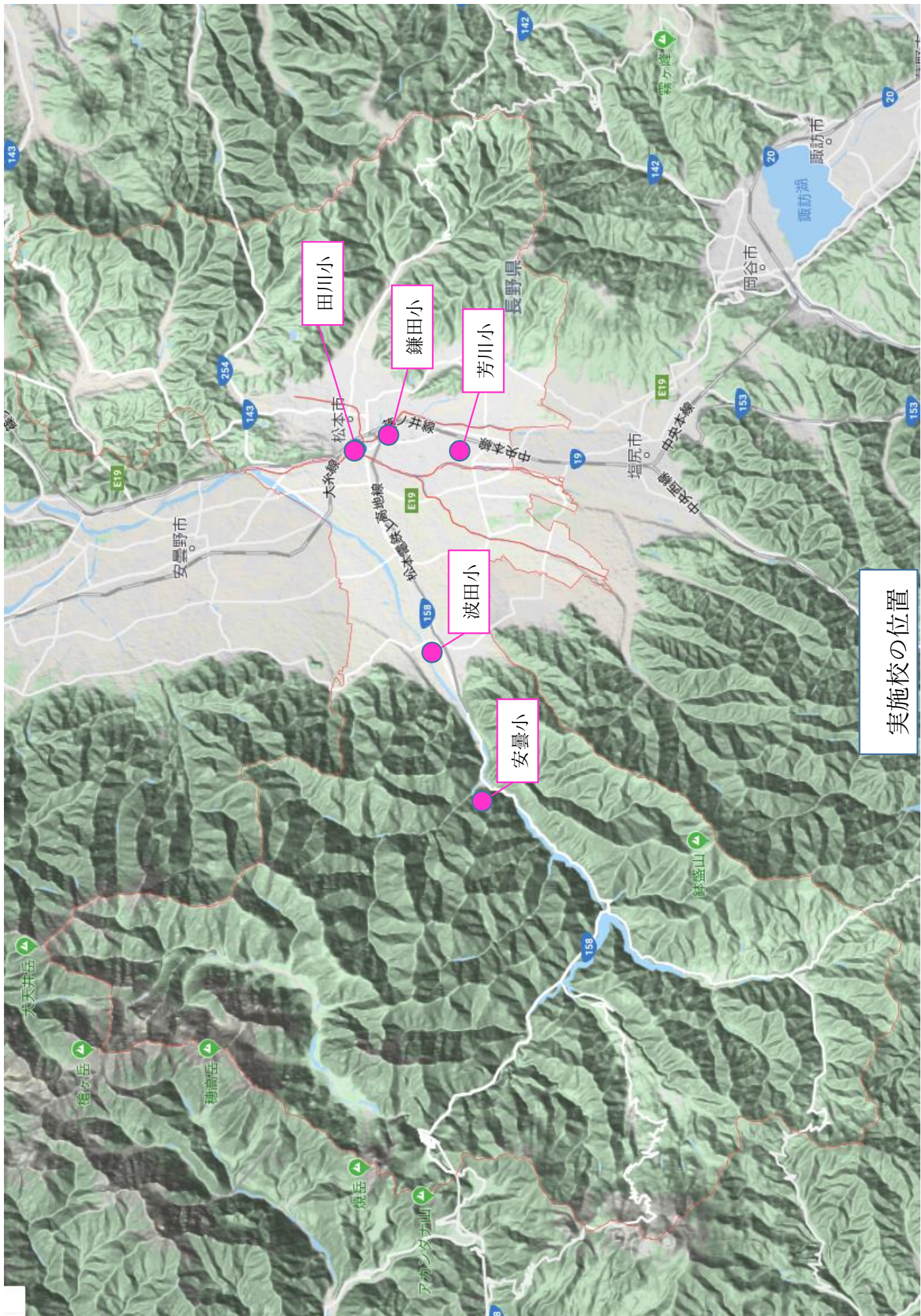
東京大学海洋アライアンス
海洋教育促進
研究センター

RF 笹川平和財団

©2019 海洋政策研究所



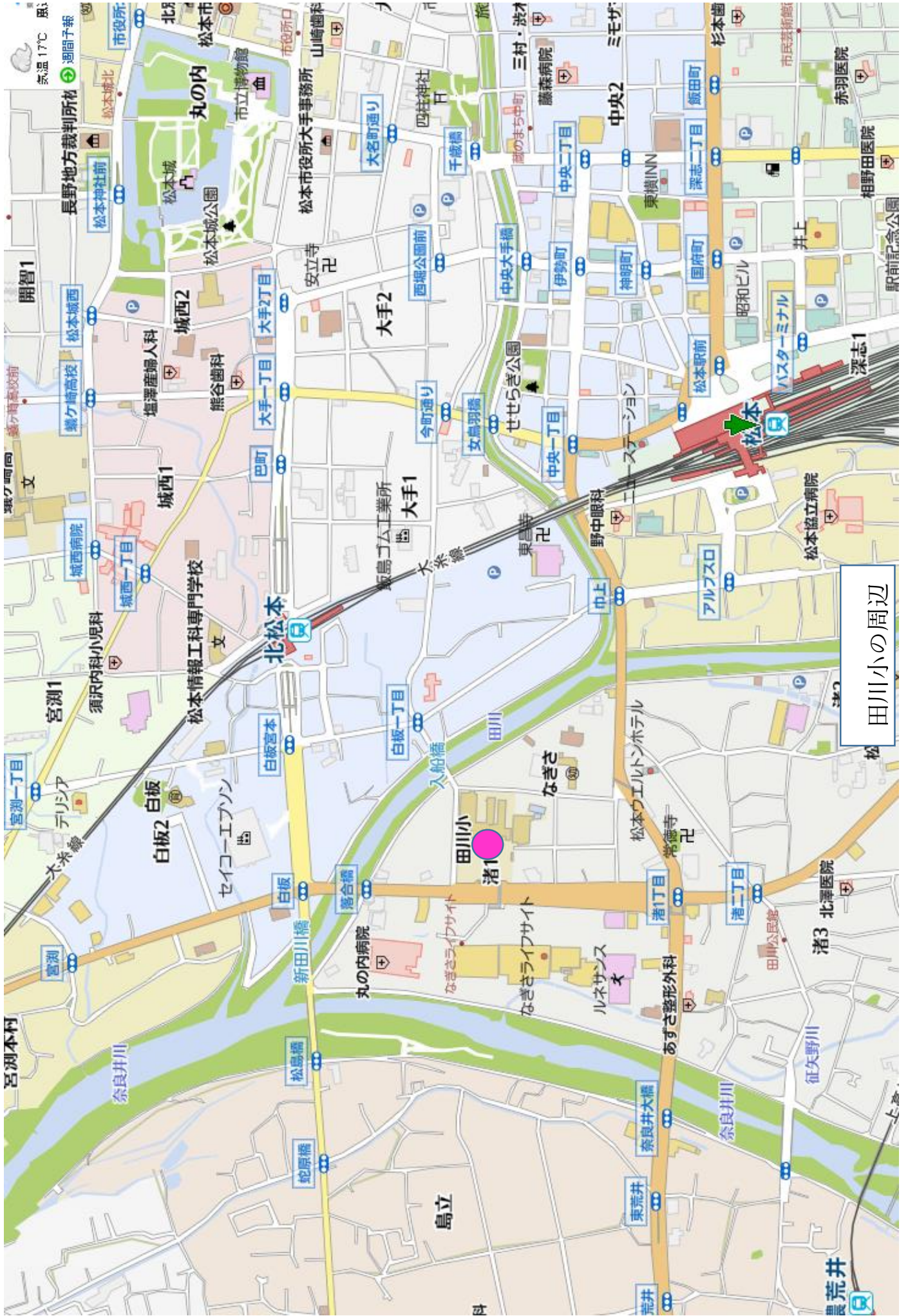
松本市の位置



実施校の位置

海洋教育 実施記録

田川小学校



田川小の周辺

海洋教育 PS 体験活動年間計画打合せ報告

日時：2019. 4. 5 16:30～

場所：田川小学校

出席者：【学校】赤羽敬子校長先生、山口教頭先生、木村先生

【市教委】齊藤先生

【ee ネット】桐原さん、みど里さん、中林

1. 学校の現状

- ・海洋教育については、別紙のような流れで考えている。
- ・これまでの積み上げがあるので、それを生かしていきたい。
- ・新しいことをするのではなく、これまで取り組んできたことを継続しながら環境のことに目を向けるなど、視野を広げたい。
- ・地域としては川の合流が多いところで、水の危険地帯でもある。
- ・川が汚れていた時代から、復活してきた歴史がある。
- ・地域のテーマとして「川」がある。水の浄化や、川に生物に気づくなどの自然との触れ合い、川との安全な関わり方というところを大事にしたい。

2. 検討

- ・1年、2年、3年の活動としては、これまでやってきた川の生物との触れ合いや観察を継続的に実施したい
- ・4年又は5年で川下りを経験し、その体験を次の学習につなげたい
- ・体験活動としては1年、2年、3年の生物観察と高学年の川下りを、教科としては社会科の地域学習を柱にする。
- ・子ども達の興味や教科書の流れを見ながら、水の循環学習、浄化センター見学や、五感を使った自然観察などを取り入れて、海洋学習としての中身を膨らませていきたい。
- ・印象に残る活動を積み上げていながら、身の回りのことが日本や世界につながっていることに子ども達のなかから気づいてくれるといい。
- ・体験活動をやっけていながら、次はこうしたいという希望が先生の中から出てきたところでの支援がほしい。

- ・学校の裏から下流にかけて護岸工事を行っているが、この工事は何時まで続く？ 例年通りの活動ができるか？
- ・1年、2年、3年の活動を今後も継続、定着させるには、地元町会や川の管理者と一度きちんと話しをする必要があるかも。
- ・安曇や波田等、同じ流域の他校との連携があっても良い。
- ・ee ネットとしては、活動の要望があったところで打合せを行い、講師を紹介していく。
- ・海洋教育としての流れについては学校側で検討し、打合せの際に講師にそれぞれの活動の狙いを伝える。
- ・トライやるエコ、海洋教育、県補助（信州環境カレッジ）ともに共通の打ち合わせシートと報告書様式を使う。

3. 今後の予定

- ・8月末から9月に川下りに向けて調整。講師の調整と、護岸工事についての情報を集める。
- ・6月上旬～中旬にかけて川の自然と文化研究所の田川の生物観察、ホタル学会の湧水の生物観察ができるよう講師の調整を行う。（護岸工事）
- ・学校の都合の悪い日は、6月4日×、6月7日×、6月10日×、6月12日×、6月14日×
- ・学校の方からの要請があれば、年度初めに講師の顔合わせと年間の流れを打ち合わせる会を調整する。

田川小学校 プログラム案

学年	日時	内容		講師
1年	夏	川・川の生き物との出会い (生活科)	学校のビオトープで水遊びをする。 川でザリガニつりをする。	
2年	夏	川の生き物探し (生活科)	奈良井川湧水で川の生き物を探す。 川について課題をもつ。	
	秋	川原の自然観察 (生活科)	田川の川原でネイチャーゲームを行う。 川について課題をもつ。	
3年	春	田川地域探検 (社会)(総合)	田川地区の位置を田川と奈良井川から知る。 田川地区と田川との関わりを知る。(犀川通船)	
	夏	川の生き物観察 (総合)	奈良井川湧水と田川の生き物の比較。	
	1学期終わり	わたしたちの松本市 (社会)	松本市の川を知る。	
4年	5月	上水場・下水処理場の見学 (社会)	飲み水がどこから来るかを知る。 下水がどこへ行くかを知る。	
	7月	水はどこからきたか (総合)	水の循環について知る。	
	8月	人の暮らしと川 (総合)	昔の人のように犀川をボートで下る。 川の環境を守る活動を考える。	
	2学期終わり	わたしたちの長野県 (社会)	田川や奈良井川が日本海へ注ぐことを知る。	
5年	9月ごろ	流れる水のはたらき (理科)	川を観察し、川のはたらきを知る。	
	3学期	私たちの生活と環境 (社会)	山～川～海のつながりを知る。 山の環境を守る活動を考える。	
6年	7月	生き物と自然 (理科)	生き物は水をとおして自然と係っていることを知る。	

2019年度 海洋教育支援事業 打合せシート



※下記の項目を参考に打合せをして下さい。打合せ終了後、記入済みのシートをFAX(0263-86-8739)又はメール(ecoconet@gominetnagano.jp)で中信地区環境教育NW事務局に送って下さい。

打合せ日時：	令和元年 5月 17日	場所:	田川小会議室
打合せをした人：	学校 2-1古瀬先生、2-2岩波先生 団体 藤山先生、横山さん、古久保さん EE 中林		
支援をする団体の名前：	松本ホテル学会	連絡先：	- - (藤山先生)
実施する学校の名前：	田川小学校	連絡先：	0263-26-1377 (窓口 河合先生)
プログラム名：	水辺の観察会		
支援してほしい内容 (教えてほしいこと、先生の願い)	川遊びを中心に。川に触れる体験をする。 川の生き物に興味を持つきっかけ作り。		
学年・クラス：	2学年	人数：	1組-30人、2組-27人 担任(代表)：古瀬先生
活動する日と時間：	6月18日 9:00~11:00		
講師集合時間：	9:00 奈良井川脇の活動場所		
活動する場所：	奈良井川脇の湧水		
活動の際の児童生徒の服装等：	水着の上に体操服、短パン、運動靴		
大まかな活動内容：	9:00学校出発~ 9:20現地着(挨拶・紹介)~ 9:30~川に入る~10:20 10:40 学校に向けて出発~ 11:00学校着 川で捕まえた生き物は講師の車に乗せて学校に持ち帰る。(3年が観察会)		
当日までにしておくこと (事前指導)	団体 湧水周辺の草刈り(17日?) 観察用具の準備 学校		
当日準備する物：	団体 観察用具 学校 ブルーシート、すずらんテープ		
気を付けること (危険回避にむけて)	すずらんテープで範囲を示す。		
講師の名前：	藤山先生、横山さん、古久保さん		
講師料：			
材料費等：	講師料に含む		
支払い方法：			
保険の確認：	傷害/賠償 学校保険、社協ボランティア保険		
マスコミ取材：	可		
写真撮影と使用許可：	撮影者 先生 使用方法 ・学習報告(WEB掲載あり) ・団体WEB ・県のHP ・その他(海洋教育報告書) 使用できる写真=先生からの報告書で使用されたもの 確認方法		
備考： (雨天の場合、その他配慮が必要な事等)	予備日は6月25日。6月25日もダメな場合は再検討。		

海洋教育支援事業実施報告書

授 業 名	川の生き物探し
実施学校名	松本市立田川小学校
実施学年、学級 参加人数	2年1組30名 2年2組25名 計55名
担当者	古瀬 久美子 岩波 駿
実施日（期間）	令和元年 6月18日
講師名	松本ホテル学会
実施概要	奈良井川脇の湧水（松島橋北側付近）へ行って、生き物探しをすることを通して、自然の中でいろいろな生き物が生きていることを知り、自然への関心を高める。
実施状況 (授業風景)	<p>① 学校から奈良井川まで歩いて行き、川原で講師の先生方と顔合わせをする。自己紹介をしていただき、川での学習で注意することを聞く。</p>  <p>② 早速、川に入り、タモを使って川の生き物探しをする。はじめはおそるおそる川に入っていたが、徐々に慣れ、みんな喜んで、思い思いに生き物探しをはじめ、夢中になっていった。</p> 

	<p>③ 生き物を捕まえると、子どもたちはすぐに講師の先生のところへ行き、名前を聞いていた。なかなか見つけられない子もいたが、講師の先生に生き物がいそうな場所を教えてもらい、見つけることができた。生き物の名前を教えてもらい、興味をもつことができた。</p> <p>④ 捕まえた生き物を持ち帰りたいと言う子もいたが、今回は持ち帰らず自然に返すことにした。</p> <p>⑤ あっという間に時間が過ぎてしまい、子どもたちはもっと探したい様子だった。</p> <p>⑥ 講師の先生方にお礼を行ってから学校に戻った。教室でどんな生き物がいたか、川の様子はどうだったかなどを自分の言葉でまとめた。</p>
--	---



<p>授業について</p>	<p>記入者</p>	<p>田川小学校 古瀬 久美子</p>
	<p>1 授業を通しての子どもたちの反応、感想等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・川の水は、ひんやりと冷たくて気持ちよかった。きれいな川だから生き物がいっぱいいるんだなと思った。 ・知らない生き物をたくさん教えてもらってすごく楽しかった。ヨコエビは石の下に隠れているのが分かった。 ・カニやトノサマガエルをつかまえて楽しかった。どじょうをつかまえたともだちもいてすごいなと思った。 ・楽しかったから、また、来たいと思った。 ・つかまえたけど、生き物が住んでいる場所だから、返せてよかった。 <p>2 先生方の感想、要望等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講師の先生方が経験豊富で川についても詳しく、いろいろ教えていただいた。安全面の配慮もありがたい。タモやトレーなどの準備をしてくださり、大変有り難かった。 ・このような校外学習を2年生でぜひ続けていきたい。 <p>3 その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・草刈りをしないと子どもたちは入っていけない場所である。前日に講師の先生方に刈っていただき、とてもありがたかった。広範囲なので、とても大変だったと思う。 	

海洋教育 体験活動実施支援（安全管理）報告書

実施日時	令和元年6月18日 9時～11時
実施団体	松本ホテル学会
実施校・学年・組	田川小学校2年1組 2組 55名
安全管理担当者 (EE ネット)	桐原 眞幸、中林 直子
記録者	桐原 眞幸
実施概要	<p>実施プログラム（名）川の生き物探し</p> <p>実施場所 奈良井川 脇の湧水 松島橋北側</p> <p>主な内容 湧水に入りタモで生き物をさがし、色々な生物がいることを実感し自然への興味を持つ。</p>
講師の感想	※その場で聞いた講師の感想を記録。
記録者の感想	<p>松本市内近郊にこんなに素晴らしい水辺が残っていたことに感激した。日常的に通る松島橋から見ただけでは分らない。</p> <p>結構な人数の学習だったが場所が限られていること、やることが明確なので効率よく実施できた。子供達は、スタート時は不慣れだったが色々な生物を見つけそれぞれ見せ合う中でより大胆に積極的に活動に入っていた。</p> <p>帰るときの嬉しそうで生き生きした顔が忘れられない。小学生時代の一時ではあるが心に刻まれた体験だと思う。「百聞は一見にしかず」というが体験に勝る学習はないのではないか。是非継続してほしい学習である。</p> <p>※学習の見どころ、良かったところ等を記入。</p>
その他 気付いた事等	事前に松本ホテル学会の方々が湧水の周辺の草刈りを完了していたのでスムーズな体験に入ることができた。プロセスや結果だけでなく事前の目に見えない下準備の重要さと苦労を実感できた。

2019年度 海洋教育支援事業 打合せシート



※下記の項目を参考に打合せをして下さい。打合せ終了後、記入済みのシートをFAX(0263-86-8739)又はメール(ecoconet@gominetnagano.jp)で中信地区環境教育NW事務局に送って下さい。

打合せ日時：	令和元年 5月 17日	場所:	田川小会議室
打合せをした人：	学校 3-1齊藤先生、3-2河合先生 団体 吉田先生、山本先生 EE 中林		
支援をする団体の名前：	川の自然と文化研究所	連絡先：	- - (山本先生)
実施する学校の名前：	田川小学校	連絡先：	0263-26-1377 (窓口 河合先生)
プログラム名：	川の生き物探し		
支援してほしい内容 (教えてほしいこと、先生の願い)	川に棲む生き物の採取の仕方、種類、名前		
学年・クラス：	3学年	人数：	1組-21人、2組-22人 担任(代表)：河合先生
活動する日と時間：	6月18日 9:00~12:15		
講師集合時間：	9:00 田川小玄関口		
活動する場所：	田川入船橋上流		
活動の際の児童生徒の服装等：	水着の上に体操服、短パン、運動靴		
大まかな活動内容：	9:00学校出発~ 9:15~生き物採取開始~10:45 11:00学校着、着替 (講師はこの間に採取した生き物の仕分け) 11:20観察開始~12:10 採取した生き物の観察・スケッチ、田川と湧水の生き物較べ		
当日までにしておくこと： (事前指導)	団体 観察用具の準備 学校		
当日準備する物：	団体 虫めがね、ピンセット、採取網(環境保全課にも頼む)他、観察用具 学校 観察記録用紙(スケッチできるもの)、ピンセット20本程度、ホーローバット、長机、A4用紙、		
気を付けること： (危険回避にむけて)	活動範囲に旗を立てる。ライフジャケットの着用。		
講師の名前：	吉田先生、山本先生		
講師料：			
材料費等：	講師料に含む		
支払い方法：			
保険の確認：	傷害/賠償 学校保険、社協ボランティア保険		
マスコミ取材：	可		
写真撮影と使用許可：	撮影者 先生		
(打合せで許可を得た写真と目的以外の使用はしません。学習報告はeeネットの実践例として報告書等に使用されます。)	使用方法 ・学習報告(WEB掲載あり) ・団体WEB ・県のHP ・その他(海洋教育報告書)		
	使用できる写真=先生からの報告書で使用されたもの		
	確認方法		
備考： (雨天の場合、その他配慮が必要な事等)	予備日は6月25日。6月25日もダメな場合は再検討。 当日の補助を、環境政策課等に依頼する。		

海洋教育支援事業実施報告書

授 業 名	川の生き物探し	
実施学校名	松本市立田川小学校	
実施学年、学級 参加人数	3年1組 21名	3年2組 22名 計43名
担当者	齋藤 恭子 河合 英樹	
実施日（期間）	令和元年 6月18日（火）	
講師名	川の自然と文化研究会（NPO）	
実施概要	<p>学校の近くを流れる田川入船橋上流へ行って、生き物探しをすることを通して、自然の中でいろいろな生き物が生きていることを知り、自然への関心を高める。</p>	
実施状況 (授業風景)	<p>① 学校から田川入船橋上流まで歩いて行き、川原で講師の先生方と顔合わせをする。川での学習で注意することを聞く。安全確保のため、今回はライフジャケットを用意していただいた。</p>	
	<p>② 早速、川に入り、たもを使って川の生き物探しをする。快晴の中だったが川の水は冷たく感じた。しかしながら、たもを川に入れると生き物が見つかり、講師の先生方に名前を聞いたり、友だちと見せ合ったりして、夢中になって活動をした。</p>	

③ 生き物探しをする中で、川の流
れが速いところ
よりも遅いところ
のほうが見つけ
やすいことや
石の裏や草むら
の中などにもい
ることに気づい
た。



④ 昨年奈良井川遊水地で川の生き物探しを行った経験があったので
生き物に触れることや川に入ることに抵抗感を持つ児童はいなか
った。

⑤ 採った生き物たちを学
校に持ち帰り、観察会
を行った。生き物ごと
にトレイに移し、児童
は、カードにスケッチ
したり気づいたことを
書き込んだりした。



⑥ 子どもたちが田川で見
つけた主な生き物

ガガンボ、カワゲラ、カワトンボ、ゲンゴロウ、コオイムシ
サワガニ、チアカカアゲロウ、ドジョウ、トビケラ、ヌマエビ
トノサマガエル、ヒゲナガトビケラ、ヒラタカゲロウ、
ヨシノボリ、マダラカゲロウ、サナエトンボ

⑩観察会は50分ほど行った。
学習カードに何枚もスケッチを
する児童、トノサマガエルを手
の上ののせて楽しむ児童など、
ひとりひとりが自分の関心のある
活動をしていた。



	記 入 者	河合 英樹
授業について	<p>1 授業を通しての子どもたちの反応、感想等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2年生の時の川の生き物さがしと水のつめたさをくらべてみたら、今年の方がつめたくないと思いました。それに、2年生の時に見つけた生き物とちがう生き物がいて、2年生の時に見つけたカエルが少なかったです。 ・ まわりを見ると、とてもきれいな田川だなと思いました。どうしてかと自分で考えると、みんなが大切に川をあつまっているからだと思いました。つめたくて生き物も、元気に育つ川だなと思いました。 ・ トビケラをつかまえているうちに、さわれるようになりました。黒いだんごむしみたいですが、とてもぷにぷにしています。ゼリーみたいでちょっとかわいいと思いました。わたしは、トビケラとなかよしになったみたいで、とてもうれしくなりました。 <p>2 先生方の感想、要望等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 講師の先生方が経験豊富で川についても詳しく、安全面配慮やタモやトレーなどの準備をしてくださっていたので、安心して実施ができたことが大変有り難かった。 ・ 生き物を採取した場所が昨年と異なったため採取できた生き物が異なったことに気づいた児童がいた。環境によって見つけられる生き物の違いに気づくことができた。 ・ 講師の方が用意してくださった「水生生物による水質判定」をもとに、後の総合的な学習の時間で採取した生き物の分類したところ、田川の水質は、比較的よいことに気づいた子どもたちは、田川の良い環境をこれからも維持していこうという意欲をもつことができた。そのために必要なことや自分たちでもできることを考えることを今後の学習展開の主眼に据えていきたい。また、ここで考えたことが今年度の海洋教育へ発展していくように展開できればと考えている。 <p>3 その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 児童はとても楽しかったようで、後日、お家の人と一緒にもう一度訪れて遊んだ子もいた。 	

海洋教育 体験活動実施支援（安全管理）報告書

実施日時	令和元年 6月 18日（火） 午前9時～
実施団体	川の自然と文化研究所
実施校・学年・組	田川小学校 3年1組21名 3年2組22名
安全管理担当者 (EE ネット)	青木 敏和、日野谷 則男
記録者	青木 敏和
実施概要	<p>実施プログラム（名） 川の生き物探し 実施場所 田川 入船橋上流 河川敷 主な内容 田川入船橋上流河川敷でライフジャケットを着用し、川の中にはいり川の中の生き物を網で採取した。 採取した生き物は学校に持ち帰り、観察会を行った。 3年生は、2年生の時の体験を発展させて（2年時には湧水で遊んだ子どもたち）、今年度は田川で本格的に生き物採取を行った。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;">   </div> <div style="width: 50%;"> <p>現場での活動後、3年生は学校に戻って採集した生き物を分類し、観察した。自分達が捕まえた田川の生物と、2年生が捕まえた奈良井川脇湧水の生物を比較し、記録した。</p> <p>今年度はトノサマガエルが、特に女子に絶大な人気で、山ほど捕えられていた。かわるがわる手のひらに乗せて「カワイー」とナデナデされていました。カエルにとっては受難の年になった。</p> </div> </div>
講師の感想	<p>子ども達は、昨年別の場所で川の生き物探しを行ったこともあり、慣れた様子で川の中に入り、いろいろな生物を捕まえることができた。 学校の近くで、しかも街の中でいろいろな魚やエビなどを捕まえ、身近な場所に多くの生き物が生息していることをわかってもらえた。</p>
記録者の感想	<p>今の子ども達は、田川のような大きな河川に入り生き物を捕まえた経験がない子が殆どだと思われ、いい経験になったのではないかと感じた。 また、いろいろな種類の生物がいることに驚いた様子だった。</p>
その他 気付いた事等	

2019年度 海洋教育支援事業 打合せシート



※下記の項目を参考に打合せをして下さい。打合せ終了後、記入済みのシートをFAX(0263-86-8739)又はメール

打合せ日時：	2019年6月11日	場所:	田川小学校
打合せをした人：	学校 大王先生 天野先生	団体 小峰代表 EE 中林	
支援をする団体の名前：	合同会社リトルピークス	連絡先：	93-1243
実施する学校の名前：	田川小学校	連絡先：	26-1377
プログラム名：	「人の暮しと川」 安全講習会		
支援してほしい内容 (教えてほしいこと、先生の願い)	川下りを実施する前に水・川等の全体のイメージを理解させたい。 川下りの危険性を教えて欲しい。又その回避の安全対策も		
学年・クラス：	25人×2クラス	人数：	50人
		担任(代表)：	大王先生 天野先生
活動する日と時間：	8月28日(水) 2時20分から15時05分		
講師集合時間：	13時40分		
活動する場所：	田川小学校のふれあい教室		
活動の際の児童生徒の服装等：	私服		
大まかな活動内容：	「大河の一滴」のスライドショーで事前勉強と安全講習 水の源流 分岐点、循環を学ぶ 川下りをする為の準備・心構え 安全対策 レスキュー体験		
当日までにしておくこと： (事前指導)	団体 無し	学校	内容に要望があれば 事前に小峰代表へ連絡する
当日準備する物：	団体 スライドショー レスキュー道具	学校	無し
気を付けること： (危険回避にむけて)	無し		
講師の名前：	小峰代表		
講師料：	5,000円×1名=5,000円		
材料費等：	無し		
支払い方法：	海洋教育予算		
保険の確認：	傷害/賠償 特になし		
マスコミ取材：	可 ○		
写真撮影と使用許可：	撮影者	学校の先生	
(打合せで許可を得た写真と目的以外の使用はしません。学習報告はeeネットの実践例として報告書等に使用されます。)	使用方法	<input checked="" type="checkbox"/> 学習報告 (WEB掲載あり) • 団体WEB <input type="checkbox"/> その他 ()	
	使用できる写真 (例・個人が特定できないもの・担任の許可を得たもの)		
	確認方法	無し	
備考：	授業後、9月9日の川下りの打ち合わせ。 (雨天の場合、その他配慮が必要な事等)		

2019年度 海洋教育支援事業 打合せシート



※下記の項目を参考に打合せをして下さい。打合せ終了後、記入済みのシートをFAX(0263-86-8739)又はメール

打合せ日時：	2019年6月11日	場所:	田川小学校
打合せをした人：	学校 大王先生 天野先生	団体	小峰代表 EE 中林
支援をする団体の名前：	合同会社リトルピークス	連絡先：	93-1243
実施する学校の名前：	田川小学校	連絡先：	26-1377
プログラム名：	「人の暮しと川」 犀川下り		
支援してほしい内容 (教えてほしいこと、先生の願い)	海洋教育の一環として水が自分達の生活にどう結びついているか、雨、森、川、海への循環 水と運搬の歴史的関わり等を現場でボートに乗って色々な気づきや意見がでる ような川下りの体験をさせる事		
学年・クラス：	25人×2クラス	人数：	50人
		担任(代表)：	大王先生 天野先生
活動する日と時間：	9月9日(月) 8時20分から15時30分 予備日9月17日		
講師集合時間：	7時30分		
活動する場所：	学校の教室から犀川		
活動の際の児童生徒の服装等：	スクール水着 ラッシュガードか化繊のシャツ等		
大まかな活動内容：	1G目：8:20-8:40準備 9:00バス出発→9:30平瀬緑地着 10:00ボート乗込→ 11:00ゴール アクアピア発11:30→12:00学校着 2G目：13:00バス出発→ 13:30平瀬緑地着 14:00ボート乗込→15:00ゴール 15:30アクアピア発→16:00学校着		
当日までにしておくこと： (事前指導)	団体 川の下見 参加承諾書のフォームを学校に発信 学校 参加承諾書 サイズ表(身長体重)公園緑地課に占有許可申請 アクアピアに駐車許可申請		
当日準備する物：	団体 機材一式 学校 当日は川下りと通常授業の二通りの準備(急なダム放水等で中止になる場合あり)		
気を付けること： (危険回避にむけて)	水位確認(特にダムの放流) 天候判断 熱中症対策		
講師の名前：	小峰代表ほか3名計4名		
講師料：	[(5,000円×4名×3h)] × 2クラス = 12万		
材料費等：	レンタル料(ヘルメット、ライフジャケット、ウェットスーツ) 500円/52名 = 26,000円 バス代見積中		
支払い方法：	海洋教育一市の請求書		
保険の確認：	傷害/賠償 学校保険		
マスコミ取材：	可 ○		
写真撮影と使用許可：	撮影者 団体 先生		
(打合せで許可を得た写真と目的以外の使用はしません。学習報告はeeネットの実践例として報告書等に使用されます。)	使用方法 (学習報告(WEBC掲載あり)) 団体WEB ・その他()		
	使用できる写真：個人が特定できないもの・担任の許可を得たもの		
	確認方法 後日使用時に学校に確認		
備考：	8月28日の事前学習(～15:00)後に直前打合せ。できればバス会社も (雨天の場合、その他配慮が必要な事等) 天候による実施可否判断小峰代表～先生の携帯に連絡する。公園緑地課に要連絡。		

田川小4年 川下り安全管理打合せメモ

8月28日 川下り事前学習後 安全管理について最終確認

田川小学校：大王先生 リトルピークス：小峰代表 EE ネット：桐原

9月9日(月) 予定の犀川 川下り体験について具体的項目かつ役割分担につき打合せを行った。

EE ネットの役割

- ・ 体験学習がスムーズに終わるよう事前に問題点・課題・リスク等把握し関係部署と協議解決する。
- ・ 当日集合8:30から8時20分に変更 ふれあい教室集合
- ・ 水着の上にウェットスーツ着用時サイズ不適等への対応依頼あり
- ・ 移動バスが8時45分に学校北側に来る。バスのシートに防水用ビニールシート掛け補助
- ・ 9時30分平瀬緑地着ヘルメット、ライフジャケット着用補助作業
- ・ ボート離岸したあと田沢橋西岸で待機、問題発生時の対処準備
- ・ 終点白鳥湖で待機 生徒は下船から徒歩7分位でバス待機場へ
- ・ ボート移動の協力あり。ライフジャケット、ヘルメット脱ぎ、生徒バスにのせる。問題なければ田川小学校に戻る。玄関下ビニールシートの上でウェットスーツ脱ぐ。リトルピークスが収納。
- ・ 午後の部は午前の子の繰り返し
- ・ 午後の部のウェットスーツは使いまわしせず別途準備する
- ・ 当日の天候による中止判断は小峰さんと大王先生にて前日決め連絡する。

学校関係

- ・ 平瀬緑地 アクアピアパーキング 駐車許可申請とってある
- ・ バス会社あさひ観光で初めて対応。運転手が平瀬緑地へのルートを理解しているか確認する
- ・ 水中眼鏡はNG通常眼鏡かけている生徒はタコ糸でフレーム縛り固定する
- ・ 写真はリトルピークスが防水カメラ用意するので学校はSDカード準備する
- ・ 先生午前2名午後2名ボート体験同乗
- ・ ボート4槽なので男女体重その他もろもろ平均的分散での4班編成を事前決定しておく。

リトルピークス

- ・ もろもろの準備は万端整えている。講師は4人。白鳥湖の利用10月に入れば事前許可いるが9月なのでOK。6日に事前チェックの為ボートで現地確認する。


松本市海洋教育 実施報告書

授業名	人のくらしと川 ～犀川下り～ 事前学習		
学校名、学年、学級	松本市立田川小学校4学年	参加人数	50名
担当者	担任 大王雅喜 天野和花	記入者	大王雅喜
講師名	リトルピークス 小峰邦良		
実施概要	川とはどういうものであるのかその概要を知り、川下りの準備や安全対策を知り、川下りの心構えをつくる。		
実施状況	 <p>小峰さんの話を聞く子どもたち</p>		
授業について	<p>1 授業を通しての子どもたちの反応、感想等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高い山に降った雪や雨が地面にしみこんで、長い時間をかけて流れ出し、それが集まってだんだんと大きな流れ（川）になっていくんだな。 ・川下りは命に関わることなのでしっかり話を聞かなければいけないな。 ・川下りをするためには、ウエットスーツやライフジャケットを着て、運動靴を履いて、ヘルメットをかぶるなど、しっかりと準備をしてから取り組むから安心だな。 ・川に落ちた時には、慌てないことや立とうとしないことや泳ごうとしないことがわかった。 ・川に落ちた時には、ラッコのように仰向けになって水に浮くことが一番安全であることがわかった。 ・川下りの様子がわかってきたので早くやってみたいな。楽しみだな。 <p>2 先生方の感想、要望等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講師の小峰さんは、実体験に基づいて話をしているので、言葉の一つ一つに重みと説得力があった。さらに、子どもたちに伝えようとする熱意も強く感じられ、子どもたちは自分の事として話を受け止めていた。そのため、小峰さんの話の後子どもたちの質問が非常に多かった。 ・我々教師にとっても経験したことのない活動内容だったので、小峰さんが子どもたちに話を伝えることによって、活動内容を確認する事や子どもたちの反応を知る事ができ、本番で指導する上での心構えができた。 <p>3 その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・川下りの本番だけでも実施することは可能であったが、小峰さんから話を聞いたり質問したりして、より深く知ることによって、子どもたちの川下りのイメージがより現実的になり、期待感もふくらんだように思った。 		

海洋教育 体験活動実施支援（安全管理）報告書

実施日時	2019 年 8 月 28 日 午後 2 時～
実施団体	リトルピークス
実施校・学年・組	田川小学校 4 年生 2 クラス
安全管理担当者 (EE ネット)	桐原 眞幸、高井 秀夫
記録者	桐原 眞幸
実施概要	<p>実施プログラム（名） 「人の暮らしと川」安全講習会</p> <p>実施場所 田川小学校 ふれあい広場</p> <p>主な内容 「大河の一滴のスライドショー」で事前勉強と安全講習 質問</p>
講師の感想	<p>田川小学校の生徒は川に関する興味が大変強く好奇心が旺盛である。 クラスの雰囲気は積極的で沢山の質問がでるのは大規模学校と違い人員的にもある程度少ないことや、学校の風土や伝統等の影響がある気がする。 是非安全に実施できるよう頑張りたい。</p>
記録者の感想	<p>大河の一滴のスライドショーの中で、冬山で顔面が凍った様子や数メートルに達する雪の壁に驚いたり、自然な中での水の役割、動植物の様子など関心を持って、集中して聞いていた。日本の川の特質である急流、人工物の多さ等の危険要因が理解できた。</p> <p>リトルピークスの丁寧で経験豊かなリスク管理のお話は児童にとって理解しやすく興味を持てる講座となっていた。川下りの講習では、ライフジャケットの装着法、ボートから落ちた時の対処法について体の動きを子供たちにも納得できるように教えたり、レスキューロープを使用しての実際の動きをわかりやすく教えていて、子供たちもよく理解できたのではないかなと思う。</p> <p>質問では川下りの危険への質問が多くありましたが、一つ一つ丁寧に、時には面白、可笑しく答えていました。子供たちの不安と関心と期待の大ききの現れとおもいます。</p> <p>危険も仲間で協力し合うことで避けられるという話は教育指導面で重要ポイントと思う。逆に自分勝手は危険であること。</p> <p>子供達の川下りという冒険的で人生初の体験ができるという期待感は相当なものがあり稲田先生等先達の方々の長期にわたるご努力があることが基礎になってここまで来たことは大変ありがたいと思う。</p>
その他 気付いた事等	<p>大がかりな体験学習となるので問題なきよう事前準備と配慮をし EE ネットとして万全なるサポートが必要であることを事前学習で実感した。</p>

松本市海洋教育 実施報告書

授業名	人のくらしと川 ～犀川下り～ 事前学習		
学校名、学年、学級	松本市立田川小学校4学年	参加人数	51名
担当者	担任 大王雅喜 天野和花	記入者	大王雅喜
講師名	リトルピークス 小峰邦良		
実施概要	川の水が自分達の生活とどう結びついているのか学習してきた子どもたちが、実際にラフティングボートに乗って川下りを体験することを通して、自然との一体感を楽しんだり、ふるさとの川の素晴らしさを感じたりすることができる。		
実施状況	 <p>ラフティングボートに乗って川下りを満喫する児童。</p>		
授業について	<p>1 授業を通しての子どもたちの反応、感想等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初めてラフティングをやってみて、とっても楽しかった。またやりたい。 ・川の中は流れが速い所や遅い所、浅い所や深い所、合流する所や渦になっている所など、様子が違う様々な場所があることがわかった。 ・川から見る景色は自然が豊かでとてもきれいだった。 ・サギやカワウなどの鳥を見ることができた。 ・奈良井川と梓川では水の色や水温が違った。梓川の方が冷たかった。 ・ボートにつかまりながら川に入ることができておもしろかった。 ・ウェットスーツを着て、ライフジャケットを着用すれば、川に入れた。 ・ラフティングボートの底には穴が空いていて、ボート内に水が入ってもたまらないようになっていることがわかった。 <p>2 先生方の感想、要望等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ラフティングを実体験するインパクトは圧倒的で、体験自体が児童にとって最高の学習であった。貴重な体験をさせて頂きありがたかった。 ・一艘のボートに7～8名の児童・教員が乗り、ガイドが一艘に一人ずつついてもらった。ガイドの操船技術や安全への配慮が素晴らしく、危険を感じることなく4学年児童51名全員がこの体験を非常に楽しむことができた。 ・川から見た景色は自然が豊かで、ゴミなどはほとんど目に入らなかった。ゴミ問題等に目を向けるためには、違うアプローチをとった方が良いと感じた。 <p>3 その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・天候（前日の雨等も含めて）に恵まれ、貴重な経験をさせて頂いた。ラフティングの楽しさと故郷の豊かな自然の素晴らしさを改めて体験することができる活動であった。 		

海洋教育 体験活動実施支援（安全管理）報告書

実施日時	令和元 年 9 月 9 日 午前 8 時 3 0 分～
実施団体	リトルピークス
実施校・学年・組	田川小学校 4 年 2 クラス
安全管理担当者 (EE ネット)	桐原 眞幸、青木 敏和、中林 直子
記録者	桐原 眞幸
実施概要	実施プログラム（名） 「人の暮しと川」犀川下り 実施場所 学校から奈良井川 犀川 主な内容 奈良井川 犀川川下りで実際の川を実感体験し川からの目線で川の環境等を知る
講師の感想	台風の影響もあり川のリスクも増大していたので正直無事終了してホッとしている 川下り体験は小学校 4 年生としては水量、波等丁度よいレベルであった。 普段見る景色とちがう景色をみて何を感じてくれたか楽しみだ。 好天に恵まれ凄く楽しく出来た。継続してできることが楽しみです。
記録者の感想	実際に川岸に降りて水量と流れの速さにびっくりした。 講師 4 人のプロ意識はすごい。長年の経験を感じる安心感がある。 例えばウェットスーツを着せると体温が上がるので事前にバスの冷房強化したりライフジャケット、ヘルメット装着した後池に子供を入れ水に慣れされると同時に体温を下げる等の事前準備。 中継地から終点までの川下りの時間と車で追いかける時間に大差なくギリギリ。 土地勘ないと難しい対応になる。 安全管理員として帽子、サングラス・飲料水・すべり止めシューズ等事前準備する備品は重要。 子供達は、乗船前はおっかなびっくり状態だったが中継地とゴール地点では物足りないくらいの満足感・充実感で一杯だった。 2 グループに齊藤指導主事が急遽乗船し、素晴らしかったと言っていました。 子どもたちには一生忘れられない体験になったことと思う。 田川小学校の先人たちご努力の後に本日のイベントがあることを感謝したい。
その他 気付いた事等	市民タイムスの報道関係者が写真とインタビューに来ていた。 報道されれば楽しみです。


2019年度 海洋教育支援事業 打合せシート



※下記の項目を参考に打合せをして下さい。打合せ終了後、記入済みのシートをFAX(0263-86-8739)又はメール(ecoconet@gominetnagano.jp)で中信地区環境教育NW事務局に送って下さい。

打合せ日時：	2019年 6月 7日	場所:田川小4-2教室
打合せをした人：	学校 大王先生、天野先生	
	団体 宮澤 恵美 EE 中林	
支援をする団体の名前：	(株)環境技術センター	連絡先： - -
実施する学校の名前：	田川小学校	連絡先：26-1377
プログラム名：	命を育む水の循環	
支援してほしい内容 <small>(教えてほしいこと、先生の願い)</small>	4学年は、川下り、本山浄水場の見学、下水処理場の見学と、水の学習を行う。 下水の働きや、舟が暮らしに役立ってきたことなどを学んだ後のまとめ学習として、 水は生活の中で欠かせない存在であることをあらためて感じる学習にしたい。	
学年・クラス：	4学年 人数：1組25人、2組25人	担任(代表)：大王先生
活動する日と時間：	10月10日 10:50~12:25/13:50~15:25 (1クラスずつ)	
講師集合時間：	9:50 (会議室)	
活動する場所：	ふれあい教室	
活動の際の児童生徒の服装等：	私服	
大まかな活動内容：	水の循環と川の話し(20分間)→実験装置を二つ見る(10分ずつ入れ替わり、25分) きき水(4人1グループ)→きき水の結果を表にする(まずい、甘い)→ パックテスト(硬度を調べる)味の違いが出る。→46億年使いまわした水を大切に。	
当日までにしておくこと： <small>(事前指導)</small>	団体 実験装置の準備	学校 1クラスを2つのグループに分ける
当日準備する物：	団体 PC、実験装置	学校 プロジェクター、机、イス、長机3台
気を付けること： <small>(危険回避にむけて)</small>	特になし	
講師の名前：	宮澤 恵美、塩原 純	
講師料：	[(5000円×2人×2H)] × 2クラス=4万	
材料費等：	パックテスト、紙コップ、コントレックス、天然水 →教育政策課で一括購入	
支払い方法：	市の請求書(海洋)	
保険の確認：	傷害/賠償 OK	
マスコミ取材：	可	
写真撮影と使用許可：	撮影者 団体・先生	使用方法 <u>・学習報告(WEB掲載あり)</u> <u>・団体WEB</u> ・その他()
<small>(打合せで許可を得た写真と目的以外の使用はしません。学習報告はeeネットの実践例として報告書等に使用されます。)</small>	使用できる写真-個人が特定できないもの・担任の許可を得たもの	
	確認方法 後日メールで確認	
備考： <small>(雨天の場合、その他配慮が必要な事等)</small>	実験道具を持ち込むのでルートの確保を	

松本市海洋教育 実施報告書

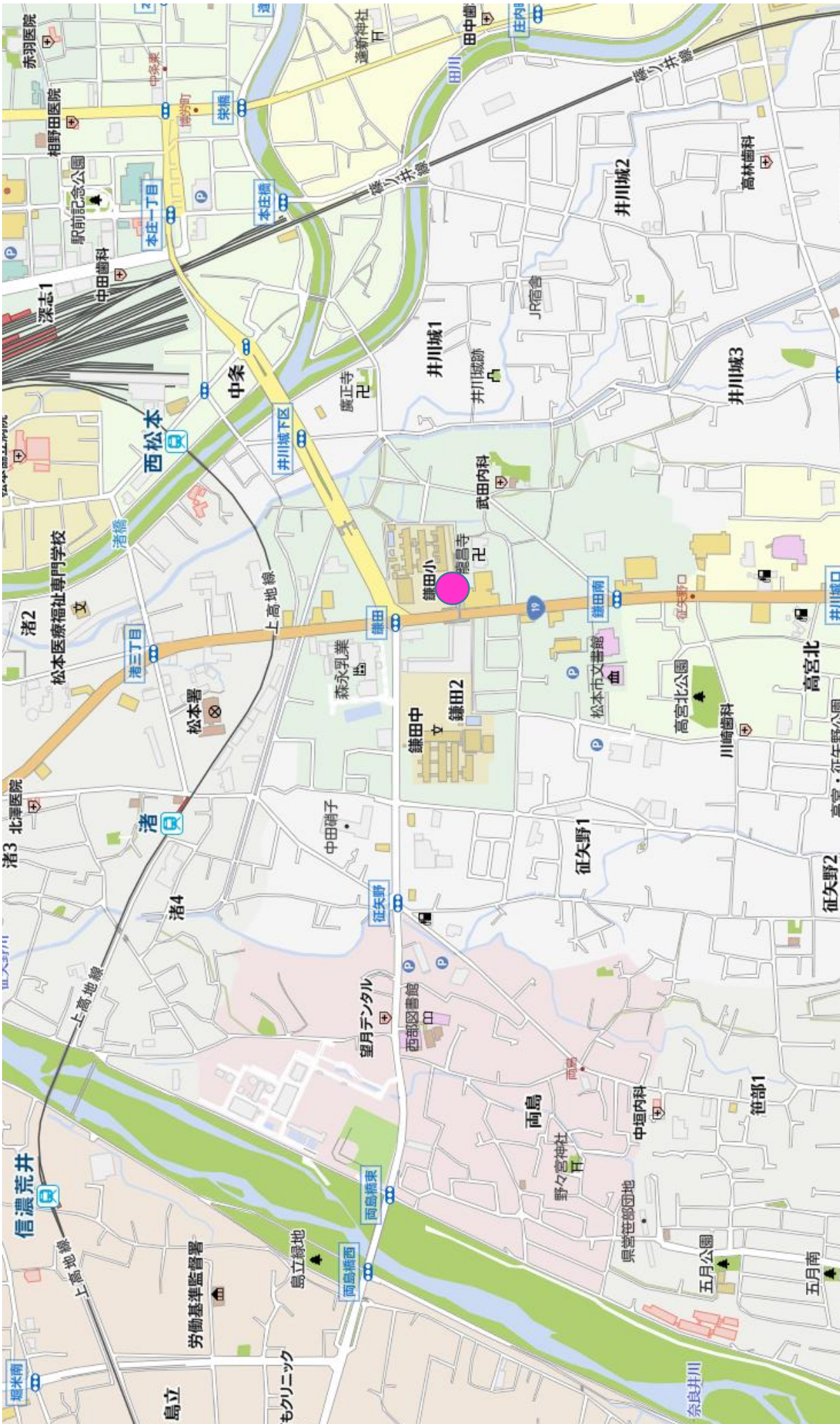
授業名	命を育む水の循環		
学校名、学年、学級	松本市立田川小学校 4 学年	参加人数	51 名
担当者	担任 大王雅喜 天野和花	記入者	大王雅喜
講師名	(株)環境技術センター 宮澤恵美 塩原純		
実施概要	<p>私たちの生活と深く結びついている水が、雨や雪が地表に降り、大地にしみこんだ水が川となって流れ、やがては海となり、海や川の水が蒸発して雲となって再び降水するといった循環をしていることを学ぶことを通して、水の大切さについて考えることができる。</p>		
実施状況	 <p>説明を聞いている児童 実験を観察 水の飲み比べの結果発表</p>		
授業について	<p>1 授業を通しての子どもたちの反応、感想等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地球ができてから生まれた水は、何十億年もの間ずっと地球にあって、水があるから私たちが生きることができる事がわかった。 ・地球は太陽からの距離がちょうどよいから、水があることがわかった。 ・森があるから、水がゆっくり地面にしみこんでいくことがわかった。 ・実験を見て、ふかふかの土（スポンジ）だと、水しみこんで、地下にたまっていくことがわかった。 ・冷やされた空気から雨が落ちていくことがわかった。 ・水道水と軟水と硬水を飲み比べてみて、全然味が違う。硬水はまずい。一番おいしいのは水道水だ。 <p>2 先生方の感想、要望等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地球の歴史や太陽と惑星の距離から水が地球上に存在することや地球上にある水の中で飲むことのできる淡水の割合がどのくらいあるかなど、興味深い内容についてプロジェクターの映像を使いながら説明してもらったが、小学4年生には少し難しい内容であった。もう少し内容を絞って説明の時間を短くしたり、教諭が間に入って補足説明をしたり、児童からの質問時間をとったりする等の工夫があれば、より深く理解できると思われた。 ・実験を観察したり水道水と硬水と軟水を飲み比べたりする体験は、児童にわかりやすかった。 <p>3 その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6年の理科の学習に関連付けて学習するのも良いと思う。 ・環境技術浄センターでは、浄水場や下水処理場、工業廃水等の水質検査を行っているので、今回の「水の循環」以外の学習に関わっていただけるかもしれない。 		

海洋教育 体験活動実施支援（安全管理）報告書

実施日時	令和元 年 10 月 10 日 13:40~15:40
実施団体	環境技術センター
実施校・学年・組	田川小学校 4 年生 24 名 大王先生
安全管理担当者 (EE ネット)	桐原 眞幸
記録者	桐原 眞幸
実施概要	<p>実施プログラム（名） 水の循環の仕組みときき水体験</p> <p>実施場所 田川小学校</p> <p>主な内容 身近な川や山の説明 水の循環メカニズム きき水による実体験で水の違い、地質の違い 水の大切さを学ぶ。</p>
講師の感想	色んな小学校で講師をしているが特段に田川小学校 4 年生は元気がいいです。
記録者の感想	<p>水と空気はあって当たり前、特別意識をすることは少ないが改めて水の大切さを実感した。特に日本は水に恵まれているし、その中でも信州は更に恵まれている。</p> <p>又水は何億年かけて循環しているということを考えると水の循環メカニズムをいかに守り継続し後世に残すことが大事であるということを、少しでも子供達の意識の中に残ればと思う。</p> <p>現在日々飲めている水を供給してくれている松本市の関係者の努力は地味ではあるが重要な役割を担っていることに感謝したい。</p> <p>短い時間での勉強ではあるが子供達に水の大切さ、重要さをどれだけ意識の中の残ってくれたか？</p> <p>現在水不足で困窮状態にあればインパクトはあったとおもうが、日々豊富で清潔な水をふんだんに使えている状況の中では一般論的知識習得になるのやむを得ないかもしれない。</p> <p>理論的知識講習時間中は集中力が欠けていた。特に男子は水を流す実験や、きき水体験時は皆目を輝かせ何回も興味をもって繰り返していたので、インパクトを与える、好奇心を持たせるということは耳や頭に入る情報より目や口から入る情報のほうが圧倒的の強いものがあるのではないか。5 感体験の重要性を改めて感じた。</p>
その他 気付いた事等	予定開始時間が 13:50 分で現地着が 13 時 40 分、既に授業が始まっていた。講師の都合か学校の都合かは不明。20 分位の不在時間あり。予定変更の事前連絡の仕組みの徹底が必要である。

海洋教育 実施記録

鎌田小学校



鎌田小の周辺

海洋教育 PS 体験活動年間計画打合せ報告

日時：2019. 4. 11 16:30～

場所：鎌田小学校

出席者：【学校】一之瀬校長先生、渡辺教頭先生、池上先生

【市教委】齊藤先生

【ee ネット】桐原さん、みど里さん、日野谷先生、中林

1. 学校の現状

- ・アクアプログラムという名前をつけて各学年で取り組みテーマを整理しているところ。
- ・新しいことと言うよりは今やっていることを繋げて組織的にするという方向で考えている。
- ・2学年は、ペットボトル等で船を作り、川で流して遊びながら川に親しむところから始めたい。その他の学年は検討中。
- ・以前は薄川でペットボトルで使った筏を浮かべるなどの川遊びをやったこともあったが、学校から距離があるのと、水量が多い時は危険で、担任だけでは難しいということでやらなくなってしまった。
- ・わき水の多い地域なので、社会科の地域学習の中で水路や地形の学習をしている。
- ・昨年度、職員の研修として鎌田の地域を回ったり、小山先生（センター）から井川城のお話を聞いたりした。
- ・地域には水車や水を利用した生活の跡や歴史、伝説がたくさんある。
- ・井川城も、湿地の利を生かして築かれた城。鎌田という地名も釜の底の意味。頭無し川という突然現れる川もある。
- ・各学年4～5クラスと規模が大きい。学年、クラスによって大きなことに取り組みたいクラスもあれば、難しいクラスもあるが、それぞれの思いと状況に応じて無理の無いよう取り組んでいきたい。

2. 検討

- ・この学年はこれ、この学年はこれと言うように全部の活動を決めてしまうとマンネリ化すると同時に、活動ありきで職員が苦しくなってしまうので、それは避けたい。

- ・学区内の探検をしながら「これって何だろう？」という疑問を感じてそれを追及するという素朴なところから始められるといい。
- ・一つやってみて、そこで感じたことを元に次の活動を考えるというように、子ども達の主体的な取り組みを大事にしたい。
- ・とりあえず、興味のあるところから取り組んでみたい。今年度は上手く繋がらずにブツブツの学習になってしまうかもしれないが、いろいろなことをやってみることで今後の可能性を探りたい。
- ・薄川は遠いので、可能であれば近くの川を使って楽しい川遊びができるといい。
- ・草間弥生さんの出身校でもあるので、草間さんの作品と地域とのつながりを知るのも良いかも。
- ・学校の前の用水路、穴田川等、近くに観察や活動に使えるような水路は沢山ある。
- ・穴田川は朝と夕方流量が違ったり、不思議な川。流量が多い時は流れも速く、危険な感じがする。

3. 今後の予定

- ・「9月にどこかの川で、手作りの小舟や筏を浮かべて遊ぶ」という2学年の希望活動の実現に向けて環境を整えていく。
- ・ee ネットの方で、川遊びができそうな学区内の水路を探り、関係者から情報を集める。
- ・穴田川が学校にも近く川遊びの第一候補だが、短時間で流量が変化する等謎も多いので、まずは情報収集を行う。
- ・他の学年から学習希望がまとまってきたところで、適宜講師を調整する。
- ・ee ネットの講師リストに無い内容でもとりあえずやりたいことがあれば希望を出していただき、お手伝いをしていく。
- ・1年目はいろいろやってみて、夏休み後、年度末に見直し、2年目に繋げる。


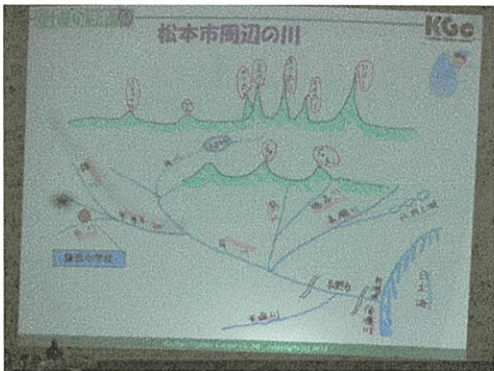


2019年度 海洋教育支援事業 打合せシート



※下記の項目を参考に打合せをして下さい。打合せ終了後、記入済みのシートをFAX(0263-86-8739)又はメール(ecoconet@gominetnagano.jp)で中信地区環境教育NW事務局に送って下さい。

打合せ日時：2019年 7月 25日	場所：鎌田小 相談室
打合せをした人：	学校 竹平先生 団体 宮澤恵美 EE中林
支援をする団体の名前：(株)環境技術センター	連絡先：27-1606
実施する学校の名前： 鎌田小学校	連絡先：25-0835
プログラム名： アクアプラン	
支援してほしい内容 (教えてほしいこと、先生の願い)	水について学習している。本山浄水場の水道施設～浄化センターにも行って、水の旅ということでやっているが、それぞれがパーツで繋がっていない。実験で海の水が雲になって川～ダム～海にいく水の循環についてわかるといいと思う。
学年・クラス：4年	人数：169人 1クラス33人～34人 担任(代表)：竹平先生
活動する日と時間：	8/28 10:50～12:20(1組目) 13:20～15:00(2組目) 8/30 9:35～10:40(3組目) 9/4 10:50～12:20(4組目) 13:20～15:00(5組目)
講師集合時間：開始1時間前	集合場所：事務室に声をかけて第2理科室で準備
活動する場所：第2理科室	
活動の際の児童生徒の服装等：私服	
大まかな活動内容：	1時限目：水の話(川の元はどこ?、水道・下水の話、水の形、水を守る森林、川の循環、森の循環、循環のかたまりが地球上で繋がっている)→実験装置で確認 2時限目：聞き水。水の味の違いと硬度の違いをパックテストで確認。土壌とミネラルの関係
当日までにしておくこと： (事前指導)	団体 パワーポイントの準備、実験装置の準備 学校 8グループ×5クラス分の水、紙コップ、パックテストを市教委に依頼
当日準備する物：	団体 PC、データ、実験装置 学校 プロジェクター、スクリーン、長机3台(移動可能なもの)
気を付けること： (危険回避にむけて)	講師の注意を聞く
講師の名前：	宮澤恵美、塩原純
講師料：	[5000円 × 2人 × 2h] × 5クラス = 10万円 (海洋)
材料費等：	なし
支払い方法：	松本市の請求書
保険の確認：	傷害/賠償 学校保険、会社の保険
マスコミ取材：	可
写真撮影と使用許可：	撮影者 先生、講師 使用方法 ・学習報告(WEB掲載あり) ・団体HP (打合せで許可を得た写真と目的以外の使用はしません。学習報告はeeネットの実践例として報告書等を使用されず。) 使用できる写真(個人が特定できないもの・担任の許可を得たもの) 確認方法 後日学校にメールで確認
備考：	特になし (雨天の場合、その他配慮が必要な事等)

海洋教育 実施報告書

授 業 名	水のゆくえ
実施学校名	松本市立鎌田小学校
実施学年、学級 参加人数	4学年 1～5組 167人
担当者	学年主任 竹平 三枝子
実施日（期間）	令和元年8月28日（火）30日（金） 9月4日（水）
講師名	環境技術センター 宮澤 恵美さん他1名
実施概要	「私たちの暮らしと水」の学習の中で、浄水場や浄化センターを見学して水の大切さを実感しつつある児童に、水の大循環や水を守るための森の働きを専門家の話や実験を通して実感させる。
授業状況 (授業風景)	<div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p>「地球の水の奇跡」「松本の川、源はどこ？どこへ行く？」のお話をパワーポイントを使い説明していただきました。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>

手

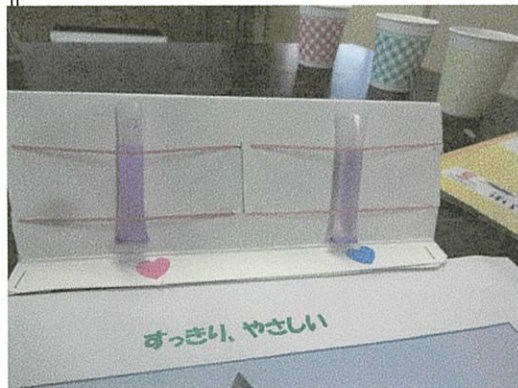
「水を育む森」の実験。乾いたスポンジと湿ったスポンジを使って森の土が水をため地下水を作っている様子を観察しました。

「地球をめぐる水」海水が水蒸気となり雲になり雨になり地下水となり川に流れ込んでいく様子を模型に自分たちで書き込みながら学習しました。



「おいしい水はどれ？」3種類の水を飲み比べました。①水道水②アルプスの天然水③硬水

「すっきり、やさしい」「しぶい・にがい」「匂いがしない」などそれぞれの水の特徴を話し合いました。



それぞれの水の違いを視覚でも確認することができました。

授業について

1 授業を通しての子どもたちの反応、感想など

○山も水と関係があることがとてもよくわかりました。

○地球が生き物が住むのにとってもいいのは、水のおかげなんだということがよくわかりました。

○土はなんでも水を吸うと思っていたけど、湿ったスポンジと乾いたスポンジの実験で水を流してみたら、乾いている方はスーッと表面を水が流れて行ってびっくりしました。

○水はすごく前からあってその水を今もそして未来も使うことがわかりました。

○外国の水と日本の水で味が全然違ってびっくりしました。

○土の中の生物も私たち人間が使う水も全部循環していることにびっ

くりしました。

○水道の蛇口から出る水を飲める国は10～15カ国しかないと聞いてびっくりしました。水をきれいにするにはたくさんお金がかかることもわかりました。

○奇跡の星地球に生まれてよかったです。

☆僕たちが使うことのできる水の量は0.01%しかないので、とても大切にしていきたいです。そして、僕たちは災害に合わないように森や林を大切にしたり、増やしていったりしたいと思いました。

☆水のためにも森を大切にしたいと思いました。

☆今、海水の温度が上がってサンゴなどが死んでしまっていることがわかりました。自分たちのできることを考えたいです。

☆水はとても大切です。無駄使いをしないようにしたいと思いました。

☆私たちも水を守っていききたいと思いました。

☆地球に水が生まれた奇跡を知り、私たちももっともっと未来の人に日本のおいしい水を飲んでもらえるよう水を守ることができればいいと思いました。

2 先生方の感想、要望など

- ・総合的な学習で「水のゆくえ」について学習していたので、授業内容以外の質問に答えていただけにありがたかったです。
- ・実験や自分の味覚を通して学習できたことは、子どもたちにとってとても良かったと思います。

3 その他

海洋教育 体験活動実施支援（安全管理）報告書

実施日時	令和元年 8 月 28 日、30 日、9 月 4 日 10 時～12 時
実施団体	環境技術センター
実施校・学年・組	鎌田小学校 4 年生 5 クラス
安全管理担当者 (EE ネット)	日野谷 則男、青木 敏和、中林 直子
記録者	日野谷 則男、青木 敏和、中林 直子
実施概要	<p>実施プログラム（名） アクアプラン（水の循環学習）</p> <p>実施場所 第二理科室</p> <p>主な内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 全体講義（地球規模の水の歴史、水の循環） 2 実験グループ参加（水の循環装置 森の水） 3 個人参加（きき水 硬水 軟水 日本とヨーロッパの水） <p>（川の循環、森の循環について実験装置を用いて学習し、川から海まで、最終的には地球規模の水の循環について学習した。また、様々な水（飲料水ではあるが、松本の水道水、日本の自然水、外国の水など）のきき水テストを行い、硬度の違いによる味の違いなどを実際に体験した。）</p>
講師の感想 宮沢 恵美 塩原 純	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習反応も良く、質問が多く出され興味をもって取り組む子供達の姿に指導する側も楽しく取り組めた。 ・ スポイトの使い方等になれない子供達が多く実験に結びつける上で困難さを感じる部分があった。 ・ 実際に手を動かし実験に参加させることは学習意欲に大きく関係してくる。 （森の水の場面で、森の地面の水の吸収性を感じ取る等） ・ 鎌田小は全体的に子ども達の元気がよくてのびのびとしている。 ・ 山間部の学校の子供達は森の話しや水が沁み込む実験に喰いついたが、それに比べると鎌田小の子供もたちは山や森への反応が薄いとのこと。
記録者の感想	<ul style="list-style-type: none"> ・ 宇宙における地球の姿から（青く輝く水の惑星）水が地球上で占める割合が70%近くで、海がその97%近くを占めている事実から海への意識が助長される。更に飲める水が0.01%しかないという水の大切さの事実が学習意欲を高めることにつながりそうである。 <p>水をはぐくむ森の循環が海にもあるという指摘は今後の海洋教育への探求学習につながる。</p> <p>実験する中で実際試し結果を自分の目で確認し記録していく過程は多く経験させたい。（きき水を行う場面、水を流して森の地面の得意性を感じる為の場面から）学習活動で自分で絵を描く為、自分の目で見て記録することは意欲的に楽しく学習できる基本的姿勢づくりにつながってくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 鎌田小学校は大きな河川が数本近くを流れており、また地下水位の高い場所にあり、日ごろから水について親しみのある場所に位置しています。ただ、全体的な水の流

	<p>れやさらに海を意識した循環について学習する機会が少ないと思われるため、有意義な授業だったと思われます。</p> <p>また、日ごろ何気なく飲んでいる水も種類によって、水が採れる場所により違いがあることがわかり、いい経験だったと思われます。</p> <ul style="list-style-type: none"> 子どもたちは水道水が一番美味しいと感じるようです。天然水の中に含まれるわずかなミネラル分を苦いと感じる子どもも結構いる。一方、大人は、水道水は無味無臭、天然水は香りがあるって甘いと感じる。これまでこの実験を行ったいくつかの学校でみな同じ結果が出ているので面白いなと感じます。
<p>その他 気付いた事等</p>	<p>子供たちの疑問や興味を水と人間の共生、海と松本のかかわり等個人の課題としてふくらませていきたい。そのためには授業のフィードバック、見直しをさせ、課題を明確にさせる時間を大事にしたい。</p>





2019年度 海洋教育支援事業 打合せシート



※下記の項目を参考に打合せをして下さい。打合せ終了後、記入済みのシートをFAX(0263-86-8739)又はメール(ecoeconet@gominetnagano.jp)で中信地区環境教育NW事務局に送って下さい。

打合せ日時：2019年 8月 2日	場所:鎌田小保健室
打合せをした人：	学校 池上先生(3組) 斉藤先生(1組) 山口先生(2組) 西沢先生(4組) 団体 小峰さん EE 中林
支援をする団体の名前：	リトルピークス 連絡先： - -
実施する学校の名前：	鎌田小 連絡先：25-0835
プログラム名：	川で「手づくり舟」に乗ろう
支援してほしい内容 (教えてほしいこと、先生の願い)	川での安全な遊び方、川の知識 川での緊急時の対応、溺れそうになったらどうする。 川の楽しさ、水辺の生物
学年・クラス：2学年	人数：5クラス 153人 担任(代表)：池上先生
活動する日と時間：	9月3日(予備9月6日) 8:20~12:00
講師集合時間：	8:00 講師集合場所：現地(ライフジャケットを広げておく)
活動する場所：	薄川 小松橋近辺 (山辺中へ行く橋)
活動の際の児童生徒の服装等：	水着、化学繊維Tシャツ・半ズボン、水泳帽、はき慣れた運動靴
大まかな活動内容：	水辺の安全講習会(25分) ←→手作り舟で川遊び Aグループ：8:50着→ジャケット着用→9:10~10:10(2班に分かれて舟遊びと安全講習を交代で) Bグループ：10:00着→ジャケット着用→10:20~11:20(2班に分かれて舟遊びと安全講習を交代で)
当日までにしておくこと： (事前指導)	団体 川の下見、ライフジャケットの準備 40+40 学校 ゴミ袋でバスシートづくり
当日準備する物：	団体 ライフジャケット、レスキュー道具、救急箱、網(eeネット) 学校 虫かご、舟、ごみ袋(たくさん)、バスシート
気を付けること： (危険回避にむけて)	水量判断
講師の名前：	小峰さん他2名(計3名)
講師料：	5000円 × 2人 × 4h = 40,000円
材料費等：	200円×45=9000円(ライフジャケットレンタル代)
支払い方法：	市の請求書による
保険の確認：	傷害/賠償 OK
マスコミ取材：	不可
写真撮影と使用許可：	撮影者 先生のも 使用方法 ・学習報告(WEB掲載あり) ・その他() 使用できる写真 報告書の写真のみ 確認方法
備考： (雨天の場合、その他配慮が必要な事等)	前日 17:00までに先生の方で判断 eeネットにタイムキーパーをお願いしたい。

海洋教育 実施報告書

授 業 名	川で「手づくりふね」にのろう
実施学校名	松本市立鎌田小学校
実施学年、学級 参加人数	2学年 1～5組 150人
担当者	学年主任 池上正夫
実施日（期間）	令和元年9月3日（火）
講師名	小峰邦良さん 他（リトルピークス）
実施概要	薄川に行き、ペットボトルで自分たちが作った船に乗って遊んだり、生き物探しをしたりすることを通して、川の楽しさや安全な遊び方を知り、自然への関心を高める。
授業状況 （授業風景）	<div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p style="text-align: center;">手作りの船に乗って、川を下ったり、</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p style="text-align: center;">ライフジャケットを使って、川の流れに乗って下ったりした。</p>



川での安全な遊び方や、水生昆虫のとり方等を教えてもらい、一人ひとりタモを使って虫を捕る体験ができた。

授業について

1 授業を通しての子どもたちの反応、感想など

- ふねにのるのも、およぐのも、ながれるのもぜんぶたのしかったです。
- 川で、ふねにのっているとき、回ったりしたいへんでしたが、みんなと楽しくのれてよかったです。
- ふねが、こわれちゃったけど、たのしかったです。ういてながれる時、水がつめたくてキーンとしたけどおもしろかったです。
- 川の先生と虫をさがした時、虫がどこにいるかヒントをもらったので、小さい虫を見つけられました。
- 川の虫は、流れが少ない所にいることや、タイコウチやエビトンボを初めて知った。

2 先生方の感想、要望など

- ・川の水量や流れが適度だったので、気持ちよく活動ができた。
- ・船遊び半分、川の学習半分でよかった。
- ・講師の先生が安全を考えて船に乗せてくれたので、スムーズに楽しく手作り船に乗ることができた。また船に乗ったり、ライフジャケットで浮いたりして、楽しめた。
- ・川の学習は、川遊びをする際、気をつけることを教えてもらったり、各自タモを準備してもらい、水生昆虫取りをしたりして、子どもたちは喜んでやっていた。虫も少し捕れた。

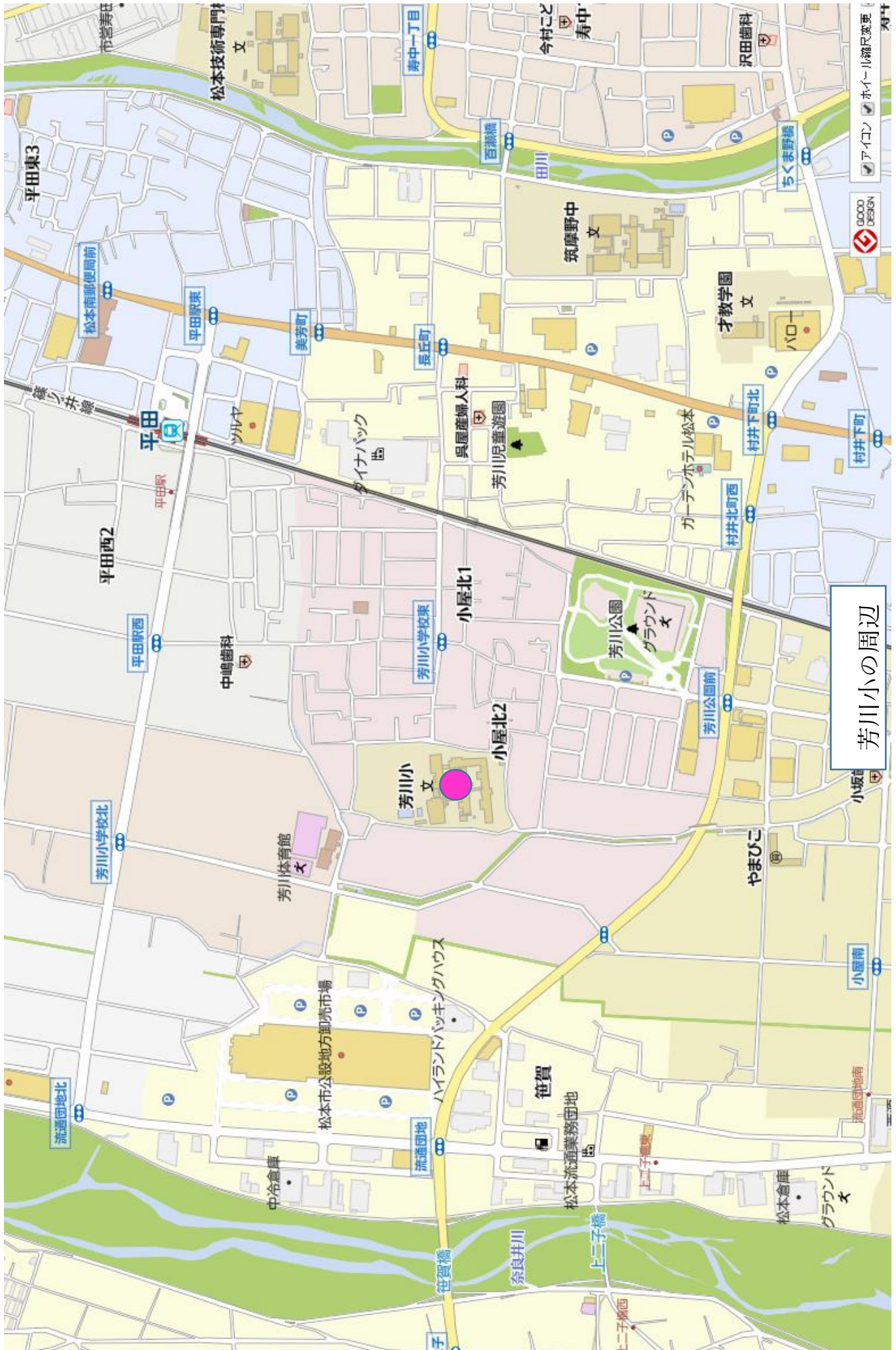
3 その他

海洋教育 体験活動実施支援（安全管理）報告書

実施日時	令和元 年 9 月 3 日 8 時～12 時
実施団体	リトルピークス
実施校・学年・組	鎌田小学校 2 年 5 クラス 1 5 3 人
安全管理担当者 (EE ネット)	桐原 眞幸、桐原 みど里、中林 直子
記録者	桐原 眞幸
実施概要	<p>実施プログラム（名） 川で「手作り舟」に乗ろう</p> <p>実施場所 薄川 小松橋 上流</p> <p>主な内容 1 水辺の安全講習 2 手作り舟で川遊び</p>
講師の感想	<ul style="list-style-type: none"> ・ 短時間でスケジュールもきつかったが2年生が対象だったので集中できる時間としては丁度良かった。 ・ 川の楽しみを体験したことでこれからも川に親しんでもらい川をきれいにし、海を汚さないという思いと行動を若い人に引き継いでもらいたい ・ 今までプールという水の静止状態から川という流れのあるところでの手作りボート遊びという体験に目を輝かせていたのは大変嬉しかった。
記録者の感想	<ul style="list-style-type: none"> ・ リトルピークスの小峰講師は、川の知識や安全に遊ぶ方法等専門的な話を子供向けに解りやすくお話されて、子供たちに良く理解されたと思った ・ 子供達は各グループ毎の自由な発想で製作した大事なボートを使う喜びにあふれボートの自作とそれを川に浮かべて遊ぶという2重の喜びを感じたのではないか ・ グループ単位の行動（ボート作りを含め）で協力し合うこと、自由な発想で物づくりを楽しむこと等素晴らしい体験授業であると思う。継続を願う。 ・ 普段見ているだけの薄川は今回の川遊びでかなり身近なものになり、環境汚染等現代の問題となっている課題とのつながりが身をもって体験・経験できたのではないか。実践教育の重要性を改めて感じた。
その他 気付いた事等	

海洋教育 実施記録

芳川小学校



芳川小の周辺

海洋教育 PS 体験活動年間計画打合せ報告

日時：2019. 4. 4 16:30～

場所：芳川小学校

出席者：【学校】伊藤 隆 校長先生、小松教頭先生

【市教委】齊藤先生

【ee ネット】桐原さん、みど里さん、日野谷先生、中澤先生、中林

1. 学校の現状

- ・海洋教育の進め方については、各学年のプランを募集しているところ。
- ・プロジェクトチームを作り、取り組んでいく予定。
- ・方向としては、4年生で学習する四ヶ堰（しかせぎ）を中心に展開したい。
- ・芳川はもともと水に大変苦勞をしてきた地域だが、明治期に四ヶ堰から取水するシステムができて水争いが治まった。
- ・学校を地域の要と考え、学校に珍しい植物を移植するなどして学校が地域の方の集う場所になるよう職員が工夫してきた歴史がある。
- ・地域学習として積み上げてきた四ヶ堰の学習をベースにして、さらにワンステップ上の学習に進めることができればと思う。

2. 検討

- ・4年生は毎年、地域の方に指導をしていただいて堰の学習をしている。
- ・四ヶ堰の取水口（奈良井川から）は塩尻の堅石にある。帰りだけでもバスが使える見学しやすい。
- ・奈良井川の上流、水源の探検や、四ヶ堰の生物観察などが行えるといい。
- ・4年生の社会見学では木曽方面に行く（秋）ので、分水嶺に目を向けるような学習も面白いと思う。
- ・芳川小、鎌田小、田川小と、同じ田川流域で、距離的にもあまり離れていないにも関わらず、水が豊富な地と苦勞した地と差があり、水利用にも違いがある。地形的なものだと思いが興味深い。

3. 今後の予定





- ・新4年生が四ヶ堰の学習を行う際に ee ネットからも同行させていただき、四ヶ堰について一緒に学習しながら今後のお手伝いの方向を探る。
- ・他のモデル校4校との交流の機会を設ける。各校独自の学習の中から松本らしい共通テーマが見えてくるかもしれない。

海洋教育 実施報告書




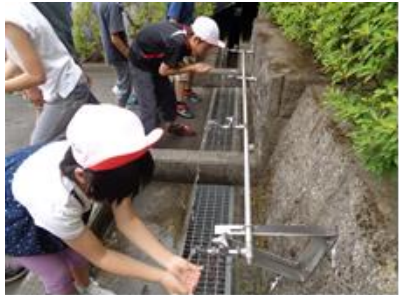
授 業 名	四ヶ堰見学と四ヶ堰の話	
実施学校名	松本市立芳川小学校	
実施学年、学級、参加人数	4年生	
担当者	窪田 智子 伊藤 幸司 松山 美好 西村 昌子	
実施日（期間）	①令和元年 5月14日（火） ②令和元年 6月 5日（水）	
講師名	元芳川公民館長 上村井 淳 さん	
実施概要	①四ヶ堰の取水口、深堀、円筒分水口を見学し、堰ぞいに歩くことを通して、堰の工夫を知り、それを作った昔の人々の工夫や努力に気づく。 ②芳川地区の昔の様子を聞き、昔は水にとっても困っていたこと、堰を作った百瀬三七の願いについて知る。	
実施状況 (授業風景)	 <p>円筒分水口の仕組みを見学</p>	 <p>ここから水を取り入れてるんだ。</p>
	 <p>こんなに深く、よく掘ったな</p>	 <p>百瀬三七についてのお話をお聞きする。</p>
	記 入 者	窪田 智子
授業について	<p>1 授業を通しての子どもたちの反応、感想等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・深堀は、深いところを流れていて、これを昔の人達が掘ったのかと思うとびっくりした。深堀は木が生えていてとてもきれいだった。 ・沈砂池では、水の流れがゆっくりになるから、砂などが下に沈むことが分かった。 ・昔の、平田・野溝の人達が水にとってもこまっていたことが分かった。新しい堰を作った三七さんはすごいと思った。 <p>2 先生方の感想、要望等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・取水口と深堀を見学することで、奈良井川から水を引いていること、途中、とても深い所を掘らなければならなかったことを実感し、昔の人の知恵や努力に思いを寄せることができた。 ・この学習をする中で、芳川を通った堰が奈良井川へ戻り、川は新潟を通り海に行くことを調べてきた児童がいた。水の連続性に目が向いたので、次は川の始まりを見に行きたい。 	

<p>実施日時</p>	<p>令和元 年 5 月 14 日</p>
<p>実施団体</p>	<p>地域講師（学校手配）</p>
<p>実施校・学年・組</p>	<p>芳川小学校 4年4クラス 113人</p>
<p>安全管理担当者 （EE ネット）</p>	<p>中林 直子</p>
<p>記録者</p>	<p>中林 直子</p>
<p>実施概要</p>	<p>実施プログラム（名） 四ヶ堰見学 実施場所 奈良井川周辺（四ヶ堰取水口他） 主な内容</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;">  <p>先人が掘った水路をたどることで、人々にとっていかに水が大切なものであったかを知ると同時に、水路の各所に設けられたごみや濁りを取る仕組みから、上流から下流へと大切に水を使っていく心を知ることができた学習だったと思います。</p>  </div> <div style="width: 45%;"> <p>芳川地区は、奈良井川より高い扇状地上の台地にあるため、昔から水に苦勞をしていたそうです。明治期に奈良井川上流より水を取り入れ、台地を掘り分けて堰を通す大事業を行った先人がいて、今の豊かな田園風景が開けたそうです。塩尻地区を流れるこの水路は今でも使われており、松本芳川地区の土地改良区の皆さんによって管理されています。</p> <p>奈良井川上流から取り込まれた水は水路を分け、一部は右岸の4カ村へ、一部は対岸の3カ村へサイフォンで流されます。やがて水路は台地を掘り分けて進みます。明治の人は手作業でこの堀を掘ったそうです。</p> </div> </div> <p>広く、深く掘り分けられた深堀の底を歩く子どもたち。明治の頃の人たちの「水を得たい」という強い気持ちが成し遂げた業ですね。5月の新緑の中で、手入れをされた水路はとともきれいでした。</p> 
<p>記録者の感想</p>	<ul style="list-style-type: none"> 芳川小学校としては、このあと浄化センターの見学で、水の循環について学習する予定とのことです。地域講師の新規開拓ができ、今後の教材化を検討したい。

海洋教育 実施報告書

授 業 名	ワクワク下水道教室	
実施学校名	松本市立芳川小学校	
実施学年、学級、参加人数	4年生	
担当者	窪田 智子 伊藤 幸司 松山 美好 西村 昌子	
実施日（期間）	令和元年 6月6日（木）	
講師名	松本市上下水道課 両角さん 他3名	
実施概要	<p>①学校の下水が両島浄化センターへ流れていく様子を知る。</p> <p>②トイレットペーパーとティッシュを使い、どちらの紙が水に溶けやすいかの実験をする。</p> <p>③顕微鏡を使って、浄化センターの水の中にいる微生物を観察する。</p>	
実施状況 (授業風景)	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>下水道の仕組みを分かりやすく説明</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>クイズも交えて楽しく</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="text-align: center;">  <p>ティッシュはなかなか溶けないね</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>微生物に興味津々</p> </div> </div>	
	記 入 者	窪田 智子
授業について	<p>1 授業を通しての子どもたちの反応、感想等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・トイレットペーパーは水にすぐ溶けたのに、ティッシュは固まっていて全然水に溶けないから、トイレに流してはいけないと思った。 ・下水道が川の下を通っていく仕組みは、四ヶ堰の分水口の仕組みと似ていると思った。 ・スクールファームや浄化センターの水の中にいる微生物を見られて楽しかった。社会科見学では、もっとたくさんの微生物を見てみたい。 <p>2 先生方の感想、要望等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・使われた水が、下水道を通過して浄化センターに届く様子がとても分かりやすくまとまっていた。 ・微生物に興味を持った児童がたくさんいた。社会科見学の事前学習として、とても効果があったので来年度も行っていきたい。 	

海洋教育 実施報告書

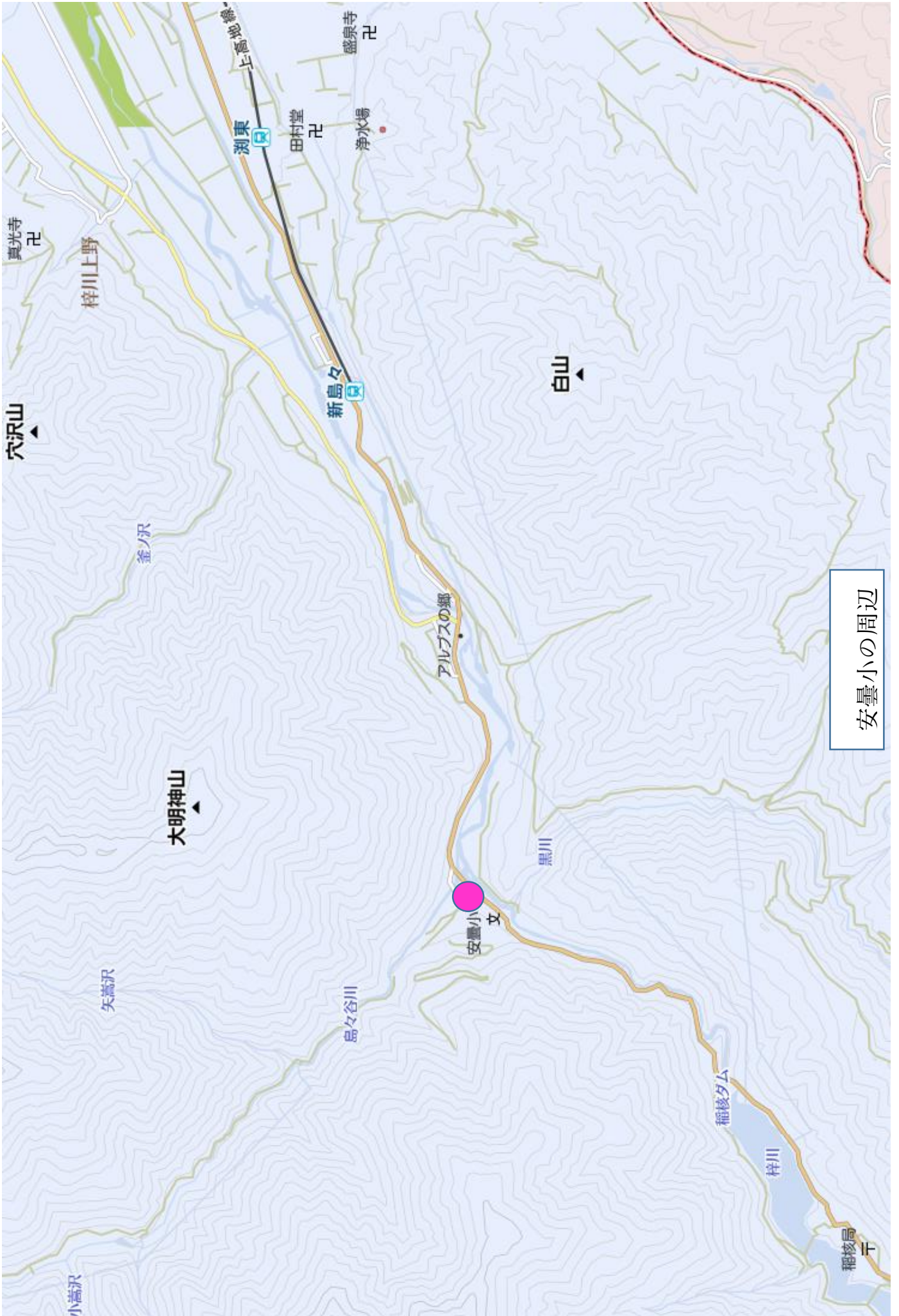
授 業 名	社会科見学（宮渚浄化センター・本山浄水場）	
実施学校名	松本市立芳川小学校	
実施学年、学級、参加人数	4年生	
担当者	窪田 智子 伊藤 幸司 松山 美好 西村 昌子	
実施日（期間）	令和元年 6月14日（金）	
講師名	宮渚浄化センター・本山浄水場の皆さん	
実施概要	<p>①宮渚浄化センターを見学し、使われた水がどのように処理されているかを知り、そこで働く人々の工夫や努力に気づく。</p> <p>②本山浄水場を見学し、飲料水がどのように作られているかを知り、そこで働く人々の工夫や努力に気づく。</p>	
実施状況 （授業風景）	 <p style="text-align: center;">汚れた水を微生物の力できれいに</p>	 <p style="text-align: center;">きれいになった水を奈良井川へ</p>
	 <p style="text-align: center;">水がだんだん透明になっていくね。</p>	 <p style="text-align: center;">できたての水はおいしいよ。</p>
	記 入 者	窪田 智子
授業について	<p>1 授業を通しての子どもたちの反応、感想等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宮渚浄化センターでは、薬を使わずに微生物の力だけで水をきれいにしていたので驚いた。微生物はすごいと思った。 ・本山浄水場では、コイの池で検査をしたり、沈澱池やろ過装置をこまめに点検したりして、いつでも安全な飲み水が作れるように工夫していた。 ・沈砂池は四ヶ堰にもあって、水をきれいにする仕組みが同じだと思った。 <p>2 先生方の感想、要望等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・下水道教室で微生物に興味を持った児童が多くいたため、見学にもとても意欲的だった。 ・見学後に出た疑問「浄化センターではどうして薬を使わないのか」について再度お聞きし、川の自浄作用の仕組みを利用していることができた。 ・本山浄水場では、施設やDVDを見たり、ろ過に使う砂利を触ったりすることで安全な飲み水を作っている様子を実感することができた。 	

海洋教育 実施報告書

授 業 名	生活科 ふねをつくろう	
実施学校名	松本市立芳川小学校	
実施学年、学級、参加人数	2年4組 33名	
担当者	都筑 雅美	
実施日（期間）	令和元年 7月11日（木）～24日（水）	
講師名		
実施概要	<p>① 生活科の学習でみんなで牛乳パックやペットボトルなど浮かびそうな材料を集めて、みんなで乗れる船作りの計画を立てる。</p> <p>② どうすれば水に浮くのか相談しながらつなぎ合わせて、何人かが乗れる船を作る。実際にプールに浮かべて何人乗れるか試したり乗って楽しんだりする。</p>	
実施状況 (授業風景)	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>どんな状態が浮くのか実験する。</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>協力してつないでいく。</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="text-align: center;">  <p>1号機完成！「やったー！」の表情</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>「ちゃんと浮かんだ！乗れたよ！」</p> </div> </div>	
	記 入 者	都筑 雅美
授業について	<p>1 授業を通しての子どもたちの反応、感想等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ みんなできょう力してのれるふねができてたのしかった。・ うかぶかうかばないかしんばいだったけど、うかんでのれてたのしかったです。・ 3年生になったら、みんな一気にのれる大きなふねを作りたいです。こんどはこわれないふねをつくりたいです。・ 大へんなのは、ペットボトルは同じものじゃないとだめなんです。なぜかという、大きさがちがうとテープがはりづらいからです。・ らい年はぎゅうにゆうパックじゃなくてちがうざいりょうにしたいです。 <p>2 教師の感想</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 4月当初、生活科の教科書を見て、子どもたちが一番にやりたいと思った学習です。今までプールといえば水遊びや泳ぐイメージだけでしたが、浮かぶ楽しさや面白さに気が付き、実感できた学習でした。今まで以上に水に親しむことができたと思います。 	

海洋教育 実施記録

安曇小学校



安曇小の周辺

海洋教育 PS 体験活動年間計画打合せ報告

日時：2019. 4. 12 16:00～

場所：安曇小学校

出席者：【学校】横山耕二 校長先生、担当 横山享司 先生

【ee ネット】日野谷先生、中林

1. 学校の現状

- ・学校では学年別に別紙のような取り組みをしているが、取り組みが単発でつながりが無いことが気になっていた。
- ・総合で行っているこれらの取り組みを、社会、理科といった教科につなげられるといいが、現状はそうはなっていない。
- ・少規模で先生の数も少ない学校なので、新しい事をやろうと思うと先生方の負担が大きいが、一方で小回りが利くメリットもある。
- ・これまでの活動の延長で取り組みたいと思うが、特例校等のことまでの見通しはたっていない。
- ・これまでの取り組みを整理することで海洋教育につながると思う。

2. 検討

- ・今年度先生方の入れ替わりがあり、地元のことを知らない先生が増えた。海洋教育にどう取り組むかという話をする前に、先生方に地元のことを知ってもらう必要がある。
- ・地元としての大きなテーマは「上高地」と「養蚕—風穴」。この2つについて、まず先生方の勉強会を開きたい。
- ・上高地学習は、これまで環境省の方に案内をしてもらいながら外来植物の抜き取り等を行ってきたが、すこし別の活動を取り入れてもいいのではと思っている。
- ・低学年の子どもたちが楽しみながら上高地に親しみ、知る活動があるといい。
- ・上高地の歴史や現状が分かるようなお話しと共に、低学年の子ども達が楽しみながら上高地に親しめるようなプログラムを紹介していただけるとありがたい。
- ・「養蚕—風穴」については高学年のテーマだと思っている。地元の研究会の皆さんの案内で風穴には行ったことがあるが、より専門的な話が聞けるとありがたい。

3. 今後の予定

- ・ 4月中に先生方対象の勉強会を行う（できれば2回）

テーマ①上高地という場所の解説と低学年向けアクティビティの紹介。

テーマ②「風穴—養蚕」の歴史と子ども達が風穴の仕組みを実感できるような体験活動の紹介。

実施候補日：4月23日（火）16：10～、25日（木）16：10～

5月8日（水）16：00～、9日（木）16：10～

※5月9日16：10～は風穴学習になりました。

- ・ 勉強会を受けて、先生方に今後の活動を御検討いただく。

→ee ネットで講師を調整

平成30年度「海洋教育」生命・環境・安全にかかわる活動

安曇小学校

	生活科・総合的な学習の時間	社会科・理科・その他の教科領域・行事
1 年	①上高地学習 ・水生昆虫の観察 ・上高地に生息する生き物の学習	
2 年	・ネイチャーゲーム ②味噌づくり（湧き水を使った石井味噌） ③豆腐づくり（おふくろの会）	
3 年	①上高地学習 ・外来植物の駆除 ・看板の清掃 ②スノーシュー体験 ③蚕について ・蚕種から育て繭をとる→繭工作	①養蚕から昔の暮らしを学ぶ【社会】 地域で行われた養蚕から昔の道具や暮らしについて学んだ
4 年	①上高地学習 ・外来植物の駆除 ・看板の清掃 ②スノーシュー体験	
5 年	①リバーアドベンチャー 川と地形の雄大さと安全面を学ぶ ②安曇3ダム・頭首工学習 3ダムの歴史・電力・治水を学ぶ ③上高地学習 老朽化する木道整備から上高地を見返す	①乗鞍登山・いがやキャンプ ②岐阜県海津市の輪中・沖縄の気候【社会】 ③波田の黒ボク土によるスイカ生産【社会】 ④安曇村「猿なぎ洞門崩落」【社会】 ⑤梓川「流れる水のはたらき」【理科】 ⑥水俣病～メチル水銀～【社会】 ⑦森林とわたしたちの生活「養蚕・炭焼き」【社会】
6 年	①リバーアドベンチャー 川と地形の雄大さと安全面を学ぶ ②安曇3ダム・頭首工学習 3ダムの歴史・電力・治水を学ぶ ③上高地学習 老朽化する木道整備から上高地を見返す	①修学旅行「味の素」（カツオ節と海の関わり）「国立科学博物館」（地球館）見学 ②大地のつくりと変化・四賀化石館・クジラ化石など見学【理科】
そ の 他		徳本峠山行・ウェストン碑前祭 乗鞍へのスキー（年2回）

上高地学習計画について

松本市立安曇小学校
片桐 義和

初夏の候、益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。過日は、本校職員研修のためにご来校いただきありがとうございました。

さて、学校では上高地学習の計画及び希望日を下記の通り作成しました。事前に環境省の大嶋さんと連絡を取り、日程の確認と講師の方の手配をお願いしました。今の時点で4つの日程で講師の手配できておらず、お願いできる方がいたらご紹介頂けたらと思います。

学年	実施希望日 第2希望まで	参加者	内容・その他
1, 2年	①7月3日(水) ② 7月5日(金)	児童6名 引率2名	・自然散策とネイチャーゲームなど 〈講師に自然保護官補佐の方をお願いする〉
1, 2年 未	①8月29日(木) ②8月30日(金)	児童6名 引率2名	・川の水棲昆虫の採集と観察, 水質学習 〈講師に自然保護官補佐の方をお願いする〉
1, 2年 未	①10月16日(水) ②10月15日(月)	児童6名 引率2名	・自然散策といきもの探し、ネイチャーゲームなど 〈講師に自然保護官補佐の方をお願いする〉
3, 4年 未	①7月19日(金) ②7月18日(木)	児童7名 引率2名	3年(5名)…上高地の植物についての学習 4年(2名)…上高地の蝶についての学習 〈講師に自然保護官補佐の方をお願いする〉
3, 4年	①9月13日(金) ② 9月12日(木)	児童7名 引率2名	・散策をしながら整備が必要な木道や橋などの施設の現状を知る 〈講師に自然保護官補佐の方をお願いする〉
3, 4年	①10月11日(金) ② 10月10日(木)	児童7名 引率2名	・木道等の施設の維持管理作業 〈講師に自然保護官補佐の方をお願いする〉
5, 6年	①9月6日(金) ② 9月17日(月) ③ 9月18日(火)	児童8名 引率2名	・木道等の施設の維持管理作業 大正池方面 (講師に自然保護官補佐の方をお願いする)
5, 6年 未	①10月7日(月) ②10月8日(火)	児童8名 引率2名	・明神池までの散策と嘉門次小屋での取材 (講師に嘉門次小屋・明神池に詳しい方をお願いしたい。岩魚を食べます。)

お願いするにあたりご確認いただきたいこと

①学年の欄の「未」と書かれた、8月29日、10月16日、7月19日、10月7日の4つの回の講師の方が見つかっておりません。

②実施希望日は講師の方の都合で変更が可能です。

③学習日のおよその日程

8:15 学校出発 —— 9:10 上高地着 —— 9:15～11:15 学習活動 ——
—— 11:20 上高地出発 —— 12:15 学校着
※上高地での学習活動は実質2時間になります。

- ④内容の詳細については講師の方と担当の学年とで連絡を取り合っ
て計画を進めて行けたらと考えて
おります。
- ⑤7月19日の計画については3年生と4年生で学習する内容が違
うため、植物・蝶それぞれに関
する講師の方をご紹介いただけるとありがたいです。
- ⑥10月7日の計画については明神池に関する講師の方をご紹介
頂きたいです。

※お忙しいところ大変申し訳ありませんが、ご紹介いただけるところ
からお伝えいただけるとあり
がたいです。特に7月19日に関しては、1ヶ月ほどと迫ってきて
おりますので、難しいよう
な期日・内容の変更も含め考えたい
と思いますので、1週間ほど
でご連絡頂けると助かります。

尚、本校の「総合的な学習の時間年間計画」「生活科年間指導計画」も添付
させていただきましたので、ご参照下さい。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学習内容 と海洋教育・上高地学習との関連	<p>【学級中核活動】</p> <p>4月 【学校ってどんなところだろうか？】 「学校探検をしよう」 「先生の名前を覚えよう」</p> <p>5月 【春とふれあおう】 「どんなものがあるかかな」</p> <p>6月 【どんな植物になるだろうか？】 「植物を観察しよう」 「大切に育てよう」</p> <p>7月 【あきがおを残そう】 「叩き染めをしよう」 「押し花を作ろう」</p> <p>8月 【夏とふれあおう】 「たなばたをたのしもう」</p> <p>9月 【秋とふれあおう】 「あきをたのしもう」</p> <p>10月 【あきがおとお別れ】 「リースを作ろう」 「手紙を書こう」</p> <p>11月 【あきがおとお別れ】 「リースを作ろう」 「手紙を書こう」</p> <p>12月 【冬とふれあおう】 「ゆきとたのしもう」</p> <p>1月 【あきがおとお別れ】 「リースを作ろう」 「手紙を書こう」</p> <p>2月 【冬とふれあおう】 「ゆきとたのしもう」</p> <p>3月 【あきがおとお別れ】 「リースを作ろう」 「手紙を書こう」</p> <p>★上高地の自然散策 自然とふれあう ネイチャージャーゲーム ◎水質学習 (※依頼)</p> <p>★上高地の川 どんな生き物がいるのかな 川の昆虫採集 ◎水質学習 (※依頼)</p> <p>★上高地の自然散策 自然とふれあう ネイチャージャーゲーム ◎水質学習 (※依頼)</p> <p>★上高地の自然散策 自然とふれあう ネイチャージャーゲーム ◎水質学習 (※依頼)</p>											
関連行事	<p>【小学校共通・小中共通活動】</p> <p>4月 【学校畑に何を植えようか？】 「どんな野菜を植えよう」</p> <p>5月 【栽培活動】 「さつまいもによる縦割り交流」 「野菜を育てよう」</p> <p>6月 【安曇祭】 「野菜を収穫しよう」</p> <p>7月 【運動会】</p> <p>8月 【安曇祭】</p> <p>9月 【安曇祭】</p> <p>10月 【安曇祭】</p> <p>11月 【安曇祭】</p> <p>12月 【安曇祭】</p> <p>1月 【安曇祭】</p> <p>2月 【安曇祭】</p> <p>3月 【安曇祭】</p> <p>【冬を楽しむ集会】</p> <p>【来入児との交流】</p> <p>【学習発表会】</p>											

小学校→11年間指導計画→総合的な学習の時間年間計画フォルダ

6月4日(火)までに

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
<p>学習内容と海洋教育・上高地学習との関連</p>											
<p>【学級中核活動】</p> <p>カイトってどんな生き物？ 「カイトを育てよう」</p> <p>■ 繭になったらカイトをどうしよう？ 「繭から糸をとろう」 「繭工作をしよう」 「繭の中から成虫を取りだそう」</p> <p>■ 地域のためにできることはないかな？ 「地域のゴミ拾いをしよう」</p> <p>学校の周りにはどんな生き物がいるの？（春） 「生き物を探そう」 「カードに記録しよう」</p> <p>どんな生き物がいるの？（夏） 「生き物を探そう」 「カードに記録しよう」</p> <p>どんな生き物がいるの？（秋） 「生き物を探そう」 「カードに記録しよう」</p> <p>どんな生き物がいるの？（冬） 「生き物を探そう」 「カードに記録しよう」</p> <p>★上高地で見られるのはどんな植物だろう？ ★上高地に見られる植物についての講演 （※依頼）</p> <p>★上高地を守る人々とはどんな活動をしているのかな？ ★上高地を守る作業を体験しよう</p> <p>◎梓川リバーアドベンチャー ◎梓川の成り立ちに関わる講演（※依頼）</p> <p>【小学校共通・小中共通活動】</p> <p>■ 学校畑に何を植えようか？ 「栽培活動」 「さつまいもにもよる縦割り交流」 「さつまいもの苗の植え方を調べよう」 「全校に説明する準備をしよう」</p> <p>■ 焼き芋大会を計画しよう 「焼き芋大会をしよう」</p> <p>■ 風穴とカイトの繋がりについて学ぼう 養蚕に関わる講演（※依頼）</p>											
<p>関連行事</p> <p>運動会 上高地遠足</p> <p>安曇祭 社会見学</p> <p>焼き芋大会 焼き芋大会</p>											

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
<p>【学級中核活動】</p> <p>安曇にはどんなチヨウウがいるの？ 「図鑑を使って調べよう」「地域のチヨウウを採ってみよう」「標本に残そう」</p> <p>雑炊橋の伝説って何？ 「運動会で表現しよう」</p> <p>安曇の水は、「清らの水」なのか？ 「梓川の水はどこから来るのか調べよう」 「安曇の水質調査をして、いろんな水と比較しよう」</p> <p>★外来植物の学習と除去活動 ★小道等の施設の維持管理作業</p> <p>◎ウオーターアドベンチャー（？） ★安曇のチヨウウにかかわる講演（※依頼）</p> <p>◎梓川の成り立ちにかかわる講演（※依頼）</p>											
<p>【小学校共通・小中共通活動】</p> <p>学校畑に何を植えようか？ 「栽培活動」「さつまいもによる縦割り交流」</p>											
<p>運動会</p> <p>安曇資料館見学</p> <p>山行・ウエストン碑前祭</p> <p>安曇祭</p>											

小学校→11年間指導計画→総合的な学習の時間年間計画フォルダ 6月4日（火）までに

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
<p>学習内容と海洋教育・上高地学習との関連</p> <p>【学級中核活動】 「地域の野菜を育てよう」 波田のスイカ、松本一本ネギ</p> <p>「米を育てよう」</p> <p>「新聞をつくらう」 年間通して、活動を新聞にまとめる</p> <p>★上高地の美化活動の現状を知る 「梓川とダムの間わり」 ◎梓川のなりたち ◎梓川リバーパーク (8/28) ◎水殿ダムクラフトピクニック (10/23) ◎砂防ダム見学</p> <p>★嘉門次小屋と明神池</p> <p>【小学校共通・小中共通活動】 「野菜を育てよう」 自分が育てたい野菜 サツマイモ</p>											
<p>関連行事</p> <p>運動会 教文学習 乗鞍登山キャンプ</p> <p>安曇祭 スイカ畑見学 アルプススクリーナー見学</p>											

小学校→11年間指導計画→総合的な学習の時間年間計画フォルダ 6月4日(火)までに

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
<p>学習内容と海洋教育・上高地学習との関連</p> <p>【学級中核活動】 「学校の宝」って何だろう？ 「1年生を迎える会で伝えよう」 継炊橋の伝説って何？ 「運動会で表現しよう」 「地域を歩いて調べよう」 「継炊橋の絵を描こう」 「安曇の宝」って何だろう？ ～わたしたちのふるさと安曇～ 「調べたことをもとに発信しよう」</p> <p>安曇に伝わる歴史や伝説にはどんなものがある？ 安曇資料館見学 平和祈念式典参加</p> <p>梓川の成り立ちとは？ 山行・ウエストン碑前祭</p> <p>★◎ウエストンが見た上高地は今も変わらない景観なのか ※美化活動の現状を知る (※講師依頼)</p> <p>★◎嘉門次小屋と明神池の成り立ち、そして今 ※明神池の成り立ちと維持への努力、嘉門次がここに小屋を建てた理由を知る (※講師依頼)</p> <p>ダムで変わった人々の営み ◎徳本峠秀綱妻の慰霊碑 ◎鎌倉街道の痕跡を探る (前田隆行先生) 高々谷川 ◎水殿ダムクラフトピクニック (リトルピークス10/23) ◎砂防ダム見学 (国土交通省)</p> <p>◎梓川の成り立ちにかかわる講演 (※講師依頼)</p> <p>【小学校共通・小中共通活動】 「学校畑に何を植えようか？」 「栽培活動」 「さつまいもによる縦割り交流」 アルプス学園交流</p> <p>卒業文集に何を残すか？ 「小学校生活の「感」の思い」 平和について考えよう これまで学びを伝えるために 「最後の参観日・送る会」</p> <p>運動会 弘法山古墳・松本市考古館見学 安曇祭 安曇資料館見学 四賀化石館見学 修学旅行 浮世絵博物館・歴史の里見学 卒業証書授与式</p>											

海洋教育 体験活動実施支援（安全管理）報告書

実施日時	令和 元年 5月9日
実施団体	NPO 地域づくり工房
実施校・学年・組	安曇小学校 教員4名
安全管理担当者 (EE ネット)	中林 直子、桐原 眞幸
記録者	中林 直子
実施概要	<p>実施プログラム（名） 風穴学習</p> <p>実施場所 風穴の里周辺</p> <p>主な内容 ・風穴の歴史学習：郷土の特徴から衰退、新たな活用法の歴史まで</p>
記録者の感想	<p>風穴・・・地滑り地帯に発生する冷風の吹き出し口。岩や石に冷熱が蓄積されるため、季節がずれて冷気や暖気が発生する仕組み。昔から、冷気を得る場所として利用されてきた。安曇小のある安曇地区にも多いが、全国各地に無数に存在する。城の石垣等も同じ効果がある。</p> <p>風穴の歴史・・・明治期、風穴の冷気を利用して人為的に蚕の卵が孵化する時期を調整する方法が発見された。それにより、日本は、春だけでなく夏や秋も養蚕を行うことができるようになって飛躍的に製糸業が発展し、日本の産業の発展を支えた。</p> <p>なぜ安曇で風穴？・・・実は、蚕の卵の孵化を風穴の冷却効果で生産調整するということが最初に発見したのが、安曇の前田さんというお宅。かつて安曇は全国から蚕種（卵）を預かって風穴小屋に保存していたとのこと。やがて風穴の仕組みが県内外に知られるようになり、群馬に大規模な風穴が整備されて富岡製糸工場の発展になったとのことです。</p> <p>衰退の原因は？・・・電気冷蔵庫の普及だそうです。ですが、この天然の冷蔵庫の価値は見直され始めているようで（密閉される冷蔵庫に比べて雑菌の繁殖が少ない）、お酒やチーズの熟成等、様々な実験が行われているようです。</p>
その他 気付いた事等	<p>これがどんな海洋教育に展開するのか楽しみです。</p> <p>ちなみに、安曇が蚕種の全国の中心地であったころ、安曇小近辺の山々は全て桑畑だったそうです。これもビックリ</p>

海洋教育 体験活動実施支援（安全管理）報告書

実施日時	令和 元年 5月21日
実施団体	環境省上高地管理官事務所大嶋管理官、レンジャー松下さん、小森さん
実施校・学年・組	安曇小学校 教員4名
安全管理担当者 (EE ネット)	中林 直子
記録者	中林 直子
実施概要	<p>実施プログラム（名） 上高地学習</p> <p>実施場所 上高地周辺</p> <p>主な内容 ・上高地の特徴学習、管理者との学習内容意見交換</p>
記録者の感想	<p>日本を代表する風景地として国立公園に指定され、年間120万人もの観光客が訪れる（H27年度実績）上高地ですが、安曇小にとっては学区。安曇小では地域を知る学習として、毎年上高地学習を実施しています。</p> <p>上高地の特徴としては、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本の多くの国立公園同様、全部が国有地では無いため、地元や、地権者、観光業者が、環境省、林野庁などと協力しながら管理をしている場所であること。 ・利用しながら保護をしつつ多様な主体が管理運営に携わっているところが難しいところでもあり、広がり生まれるところでもあること。 ・世界に誇る山岳公園としての価値を守り、生物多様性保全の基地として働きつつ、訪れる人にサービスを提供するという難しいバランスで運営されていること。 ・保護のため法律で禁止されていることも多く、子ども達が活動するにあたっていろいろ気をつけなければならないことがあること。 ・等々お話しいただきました。 <p>上高地でどんな学習ができるかというところで先生方との意見交換がありました。大嶋管理官は「地元子ども達に上高地の魅力や価値を分かってもらいたい」とお話しされていました。</p>
その他 気付いた事等	<p>レンジャーさんのお仕事の中に「サルを、石を投げたり空気銃を撃ったりして追い払う」というのがあるそうです。野生のサルが観光客に慣れ過ぎて人間をバカにするようになるのを防ぐためということですが、校庭にサルが出没することもあるという安曇小、「効果はいかに？」「サルの逆襲はないのか？」など盛り上がっていました。</p> <p>安曇小は、源流域の上高地から学校周辺まで、梓川に沿って学区があります。先生方としては川を中心とした学習から始め、地形、生き物、自然、歴史の学習を進めていきたいとのことでした。</p> <p>海洋教育1年目はまずはいろいろやってみるとのことで、5月中に、各学年担当先生が上高地学習の計画を立てるそうです。</p>

松本市 海洋教育 新規体験プログラム開発検討書
新たな上高地学習の開発

記入日時	令和 元年 7月 6日
記入者	中信地区環境教育ネットワーク 事務局 中林
内容	<p>7月4日、安曇小学校、波田小学校の上高地学習に関連して、新規の体験プログラム開発にあたり、現地事情についての注意点などを環境省上高地管理官事務所の大嶋管理官、小森自然保護官補佐、自然公園財団上高地支部の加藤所長から、レクチャーいただきましたので報告します。</p> <p>◎梓川（上高地）での生物観察について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然公園法上は魚介類の捕獲は制限されていないが、漁業権や文化財保護法には留意が必要。 ・また、上高地では法令上の制限に留まらない点についても留意が必要。 ・（「上高地の5つのルール」で、）動植物は持ち帰らないということを利用者に広く呼びかけている。 ・そのため、自然公園法上はOKであったとしても、基本的に上高地では採取や捕獲はご遠慮願いたい。 ・上高地の場合、お客さんがけっこう厳しい。許可があれば捕まえて観察することは可能かもしれないが、目につくところで行うとトラブルになる可能性はある。 ・上高地ではどうして「見るだけ」なのかということを知ってもらうのも大事。 ・ここにこんな生き物がいる—ということを写真で示してできる学習がないか？ ・1、2年生対象ということで、どんなネイチャーゲームができるのか興味あり。 <p>◎源流観察について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・清水川は湧水で美しい清流。 ・インフォメーションセンター中庭の蛇口は清水川から引いている水なので、もし飲みたい場合はそちらから飲む。（蛇口から出る水は一応消毒もされているが、飲料用として勧めているわけではない。）ペットボトルで持ち帰ることは可。 ・清水川の河床にはコケやバイカモなど大事な植物があるので、川には入らないでほしい。 ・川に入るのであれば梓川の川原でどうか。大曲りの下側などポイントかも。（観光客には配慮を） <p>◎石のこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上高地は保護区なので持ち帰りは不可。地元の子どもの学習ということで気持ちとしては協力したいが、一度どこかで一度「良し」としてしまうと、後の影響が心配。それより、なぜ上高地では取ったり、持ち帰ったりができないのかということ子ども達に考えてもらうことが大事だと思う。 ・持ち込むことはできるので、波田小付近で集めた石を持ってきて、上高地にある石と比べることはできると思う。ただし、持ち込んだ石は持って帰ること。

	<p>(また外来種の持ち込みには注意。事前に石を洗ってから持ち込んでください)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・写真を持ってきて見比べたり、現地の石をスケッチするというのはどうか。 ・上高地の石の見本が必要であれば、長野県松本建設事務所が河床整理の石を下流の採石場に持ち出している。それは許可を得た物なので、市の建設総務課か直接建設事務所に相談して、そちらから手に入れる方法はあると思う。 <p>◎上高地学習全体について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安曇、波田はまさに地元の学校。景色や自然だけではない観光客とは違う視点で上高地を見てほしいと思う。 ・安曇小は上高地の入り口にあり、上高地関係の重要な機関があるところ。上高地にもそこに住む人たちの歴史や生活がある。地元の子も達であれば、是非そういうことを学んでほしい。ただ、生憎今はそれを伝える小学生向けのプログラムが無くて残念。 ・1万2000年前、焼岳の噴火で堰止められた梓川が上高地湖をつくり、そこに土砂が堆積して上高地ができた。その後、上高地湖の土砂が地震などで土石流となって梓川を下り、河岸段丘の押出面を形成した。波田も上高地とは縁が深い。 ・上高地の鳥に詳しい専門家もいるので、その際には自然公園財団上高地支部に連絡を。 ・岳沢の展望台に上ると、全体の地形が見渡せ、上高地ができた過程や気象について理解しやすい。 ・今回のプログラムは明確な目標やロードマップが示されているわけではないので、すべての関係者が手探りでやっていると感じる。数ヶ月携わった中で課題に感じたのは <ul style="list-style-type: none"> ■ 1～6年生の間にどのようなことをどのような順番で学んでもらい、最終的に子どもたちに何を伝えたいのか明確でないこと ■ 講師の確保やプログラム後の予算確保のメド、実施方法など授業体制が整っていないこと <p>とはいえ、何でも最初から美しい形で実施できるものでもないもので、みんなが手探りで進めて行く中で次第に意識が統一されていき、プログラムの結果として残せるようになれば良いと考える。また、こういった手探り状態において、ネットワークのようなつなぎ役は重要な存在。</p>
<p>その他</p>	<p>【感想】</p> <p>安曇小も波田小も上高地とは梓川で繋がっている地域です。梓川が形作った風土や、山を背負った気候の中、自然環境を利用しながら人々の生活が工夫され、暮らしの歴史となって今があるのだと思いました。</p> <p>地元として子どもたちに上高地で何を学んで、どんな誇りを持ってほしいのか。先生方から見て、この地域のどんなところに価値があると感じるのか。まだまだ大人の方でも手探り状態と言えそうです。</p> <p>いろいろな体験を試してみる中で見える子ども達の反応、興味関心が、その手掛かりになるのかもしれないと思いました。上高地再発見プロジェクト始動！</p>

2019年度 海洋教育支援事業 打合せシート



※下記の項目を参考に打合せをして下さい。打合せ終了後、記入済みのシートをFAX(0263-86-8739)又はメール(ecoconet@gominetnagano.jp)で中信地区環境教育NW事務局に送って下さい。

打合せ日時：2019年 8月 9日	場所：安曇小校長室
打合せをした人： 学校 片桐先生	
団体 山本先生 EE 日野谷	
支援をする団体の名前：川の自然と文化研究所	連絡先： - - (山本先生)
実施する学校の名前：安曇小	連絡先：0263-94-2234
プログラム名：上高地の水生昆虫の観察	
支援してほしい内容 (教えてほしいこと、先生の願い)	上高地梓川の水生昆虫を知ること、子ども達の住んでいる地域の川 (梓川中流)とのつながりに気づく。
学年・クラス：1.2年生 人数：6人	担任(代表)：片桐先生(宮尾先生)
活動する日と時間：8月30日(金) 8:15学校出発-9:10上高地着 ~ 11:20上高地発-12:15学校着	
講師集合時間：8:00	講師集合場所：安曇小
活動する場所：上高地 穂高橋下流	
活動の際の児童生徒の服装等：体操着、長袖、長ズボン、運動靴	
大まかな活動内容：	上高地で活動する上での注意、川の説明→川の虫を見る 水面(透明なのそき箱)で水中を観察する。
当日までにしておくこと： (事前指導)	団体 車両の手配、(eeネット：子ども分のライフジャケットの手配) 学校 水面の購入
当日準備する物：	団体 資料(水性生物指標図、図鑑など) 学校 着替え、替え靴、水面、
気を付けること： (危険回避にむけて)	講師、先生の注意を聞く(最初に吉田先生に注意事項を話していただく)
講師の名前：	吉田利男先生、山本雅道先生
講師料：	5000円 × 2人 × 2h = 20,000 円 (海洋から)
材料費等：	無し(学校で購入)
支払い方法：	市の請求書
保険の確認：	傷害/賠償 OK
マスコミ取材：	不可
写真撮影と使用許可：	撮影者 先生のみ
(打合せで許可を得た写真と目的以外の使用はしません。学習報告はeeネットの実践例として報告書等に使用されます。)	使用方法 ・学習報告(WEB掲載あり) 使用できる写真 先生からの報告書に使用された写真
備考：	eeネット事務局から日野谷先生と青木さんが同行予定、雨天の場合は9月9日に延期 前日又は当日判断 片桐先生と山本先生の相談で決定→中林→日野谷先生、青木さんに連絡 講師+eeネット=4人は、信大の車があれば信大の車両で、無ければタクシーで移動

海洋教育 実施報告書

授 業 名	上高地学習「上高地の水生昆虫の観察」
実施学校名	松本市立安曇小学校
実施学年、学級、参加人数	小学1年生2名 2年生4名
担当者	片桐 義和
実施日（期間）	9月9日（月）
講師名	川の自然と文化研究所 山本雅道先生 吉田利夫先生
実施概要	上高地、梓川の水中に住む生き物を水面や水中観察用のめがねで観察をし、どのような生き物がいるのかを知る。
実施状況 (授業風景)	<div style="text-align: center;">  </div> <p>観察に適した場所を探していただいているのを、橋の上から様子を見ながら、川の中を観察中。</p> <div style="text-align: center;">  </div> <p>水中観察用のめがねを使いながら水中を観察。</p>



場所を少し移動して、梓川の直ぐ脇の石をのぞき込む。



直ぐ近くまでカモ寄ってきた。

	記入者	片桐 義和
授業について	<p>1 授業を通しての子どもたちの反応、感想等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・橋の上から泳いでいるイワナを見ることができました。とても早かったです。 ・川の中をのぞき込みましたが、全然見つかりませんでした。でも、大学の先生が見つけてくれて、ヒルがいました。他にもカゲロウやカワゲラがいました。 <p>2 先生方の感想、要望等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・川の上から泳いでいる魚を見つけることはできても、水の中にいる虫を見つけることは大変困難を伴うことを改めて感じました。上高地という特色を生かしながら、子どもたちにどのように学習させていくのか、まだまだ考えて行く必要を感じました。今回は、大学教授と一緒にいたこともあり、子どもたちは色々な生き物を見つけることができ、満足した様子だった。 ・今後、自分たちの生活の場の直ぐ近くに流れる梓川に学習の場を変えて、上流からのつながりを意識させていきたい。 <p>3 その他</p>	

海洋教育体験活動実施支援（安全管理）報告書

実施日時	令和元 年 9 月 9 日 午前 8 時 3 0 分～
実施団体	川の自然と文化研究所
実施校・学年・組	安曇小学校 1・2年生 6名
安全管理担当者 (EE ネット)	日野谷 則男、青木 敏和
記録者	日野谷 則男
実施概要	<p>実施プログラム（名） 上高地の水生昆虫の観察</p> <p>実施場所 上高地（穂高橋近くの川）</p> <p>主な内容 ・水生昆虫を探す ・とりながら講師の話を聞く</p>
講師の感想 山本雅道 吉田利男	<ul style="list-style-type: none"> ・ 台風が心配されたが天候に恵まれ水は冷たいがまあまあの種類が見つかり、子供達も一生懸命取り組んでいた。 ・ 場所の選択が大変 気候や状況によって川の様子も変わってくる ・ 上高地は人目があるので人目のないところで観察し易い場所の選定は難しいか ・ イワナもいたがイワナに焦点を当てると海につながってくる。
記録者の感想	<ul style="list-style-type: none"> ・ 少人数なので虫を探しながらその生態や形態を個々に説明することが多く子供達には即知識につながりやすかった感がある。 ・ 場所によっては川の流が速く深さなども含めた場所の選定が難しい。又、自然保護地区であり観光客も多く、人目のない場所で自由に動くことはやはり難しいか。 ・ 冷たい水にも適応している虫の取り方等具体的に学べて子供達は良かったのではないか。 ・ ・のぞき箱は余り効果がない。学習のアピール面は意味あり。
その他 気付いた事等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 観光地でもあり規制も多く、上高地の水生物の観察学習することに適した場所は（天候にも左右され）事前にしっかり下見をしておかないと時間的ロスが生じやすい。 ・ 講師の先生方は子供達が少人数でもあり、その場その場で丁寧に説明されていた。 ・ 海につながるポイントは何かしらありそう（イワナの生息）




2019年度 海洋教育支援事業 打合せシート




※下記の項目を参考に打合せをして下さい。打合せ終了後、記入済みのシートをFAX(0263-86-8739)又はメール(ecoconet@gominetnagano.jp)で中信地区環境教育NW事務局に送って下さい。

打合せ日時：	2019年 8月 23日	場所：	安曇小
打合せをした人：	学校 早淵先生、小池先生		
	団体 小峰 EE 中林		
支援をする団体の名前：	リトルピークス	連絡先：	93-1243
実施する学校の名前：	安曇小	連絡先：	94-2234
プログラム名：	梓川リバーアドベンチャー		
支援してほしい内容 (教えてほしいこと、先生の願い)	<ul style="list-style-type: none"> • 地元の川への理解 • 水難救助について学ぶ • 黒川、梓川を歩く 		
学年・クラス：	3, 4, 5学年	人数	11名+3名 担任(代表)：早淵先生
活動する日と時間：	8月28日 8:45~12:20		
講師集合時間：	8:30	講師集合場所：	昇降口前
活動する場所：	梓川、黒川、島々谷川		
活動の際の児童生徒の服装等：	水着、化繊のTシャツ、ゴーグル		
大まかな活動内容：	<ul style="list-style-type: none"> • 大河の一滴スライドショー • リバーウォーキング • 水難救助 		
当日までにしておくこと： (事前指導)	団体 下見とスライドショー準備 学校 参加人数と参加人数分のサイズ表(身長、体重、くつのサイズ)		
当日準備する物：	団体 スライドショー、ライフジャケット、沢ぐつ、ヘルメット、ウエットスーツ、タモ、バット、FA、防水カメラ 学校 プロジェクター、スクリーン、SDカード		
気を付けること： (危険回避にむけて)	水量判断、ダム放水		
講師の名前：	小峰邦良、森愛子		
講師料：			
材料費等：			
支払い方法：	不明(後日)		
保険の確認：	傷害/賠償 学校の保険で対応		
マスコミ取材：	可	不可	(保留)
写真撮影と使用許可：	撮影者	先生	
	使用方法	<ul style="list-style-type: none"> • 学習報告(WEB掲載あり) • その他() 	
(打合せで許可を得た写真と目的以外の使用はしません。学習報告はeeネットの実践例として報告書等を使用されます。)	使用できる写真	担任の許可を得たもの	
	確認方法		
備考：	<ul style="list-style-type: none"> • 当日判断→7:30にTEL • 増水、荒天時は当日話し合い 		
(雨天の場合、その他配慮が必要な事等)			

海洋教育支援事業実施報告書

授 業 名	梓川リバーアドベンチャー
実施学校名	松本市立安曇小学校
実施学年、学級、参加人数	3学年5名，4学年2名，5学年4名，計11名
担当者	3学年担任：小池加純，4学年担任：桑山美冴，5学年担任：早淵明子
実施日（期間）	9月17日（火）
講師名	合同会社リトルピークス（代表：小峰邦良さん）
実施概要	<p>①講義「大河の一滴」（パワーポイントを用いて、内容は梓川6.5kmの旅）を教室で聴き，川の働きや水の流れについて学習した。</p> <p>②梓川支流の鋸川にて，シャワークライミングや岩登り，滝壺潜り等をして川遊びを楽しんだ。</p> <p>③梓川まで出た後，川でおぼれた時の対応や川におぼれた人への救助法等を体験学習した。</p> <p>④水深がかなり深くなる所を列になって歩き，島々谷川の遡上体験を行って帰校した。</p>
実施状況 （授業風景）	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;">    </div> <div style="width: 45%;"> <p>流れる川に対して，二人一組になって，川を横断しました。縦一列になって横歩きで渡ります。前列が盾になり，後列は前列が倒れないようにささえます。一人だと流されてしまい歩けない川も，このような方法で渡れることを知りました。</p> <p>水生生物も見つけました。川の中を歩くことになれていないので，歩くだけで精一杯だったのですが，水生生物も見つけることができました。カワゲラの仲間です。綺麗な川にしか生息していないそうです。</p> <p>川でおぼれている人をどのように助ければいいのか，救助法を実際に示してくれています。何か浮かぶものを括り付けたロープを川の上流へ向けて投げます。ラッコのように抱きかかえると体力を消費することなく，救助されることを知りました。</p> </div> </div>

	 <p>滝壺へ飛び込んだ後の記念撮影です。泳ぐのが苦手な子も怖いと言っていましたが、みんなが楽しそうに飛び込んでいるのを見たら、全員飛び込むことができました。その直後の笑顔の一枚です。</p>	
	記 入 者	早淵 明子
授業について	<p>1 授業を通しての子どもたちの反応、感想等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・黒川を歩いたり、滝へ飛び込んだり、今までやったことがなかったから、川の水は冷たかったけれど、だんだん平気になって、とても楽しかった。 ・川を泳ぐのは、大変だった。川を横切ろうとしたけれど、まっすぐに泳いでも流されてしまい、ななめ前に泳いでいくのが大変だった。 ・水が深いところを泳ぐのは、足がつかなくて、とても怖かったけれど、泳ぎ切れて嬉しかった。 ・川でおぼれている人を助けるときは、先へ行って声をかけてあげればよいことがわかった。 <p>2 先生方の感想、要望等</p> <p>学校の目の前を流れている川だけれど、川は危ないから近くで遊んではいけないという指導をしてきた。しかし、正しい知識を持って体験することは、子どもたちにとっても、教師にとっても、有意義な体験になった。自分の身の回りにこんな楽しめる自然があること、特に安曇小学校は三つの川に囲まれている誇れる場所であると知ったことは、子どもたちの地域に対する誇りになったと思う。</p> <p>梓川を見るだけでなく、実際に川の中に入り体験したことにより、上高地学習への理解を深めることにも繋がった。この体験と併行して、上高地から流れてくる梓川について、河原の石を通して梓川の成り立ちについて調べたり、梓川が流れ込む大正池の浚渫工事の見学をしたり、水殿ダムのラフトピクニックで安曇のダムについて学んだり、年間を通して川について学ぶことができた。</p>	

令和元年度 海洋教育支援事業 打合せシート



※下記の項目を参考に打合せをして下さい。打合せ終了後、記入済みのシートをFAX(0263-86-8739)又はメール(ecoconet@gominetnagano.jp)で中信地区環境教育NW事務局に送って下さい。

打合せ日時：	令和元年 8月 29日 16:00~17:00	場所：	安曇小学校&かけはし
打合せをした人：	学校 片桐義和先生 宮尾駿先生 団体 藤村哲 EE 中林		
支援をする団体の名前：	いきものみっけファームin松本推進協議会	連絡先：	- - (藤村)
実施する学校の名前：	安曇小学校	連絡先：	0263-94-2234
プログラム名：	いきもの探しと観察及び環境教育講座		
支援してほしい内容 (教えてほしいこと、先生の願い)	小学1・2年生に身近な自然に触れ合う機会を持ってもらい、動植物、昆虫などいきものを探して自然に目を向けてもらいたい。		
学年・クラス：	1・2年生 人数：6人(予定)	担任(代表)：	片桐先生 宮尾先生
活動する日と時間：	令和元年9月12日(木)9:00~10:20		
講師集合時間：	8:45	講師集合場所：	体験創庫かけはし
活動する場所：	体験創庫かけはし管理地「みんなのゆめの森」		
活動の際の児童生徒の服装等：	動きやすい服装と帽子		
大まかな活動内容：	みんなのゆめの森で、自然に触れ合う時間を過ごし、動植物や昆虫などを探し、身近な自然の中で活動する。		
当日までにしておくこと (事前指導)	団体：資材の準備とリスクがありそうな場所の確認 学校：活動内容を児童に伝え、当日怪我や事故が無いように指導		
当日準備する物：	団体：いきもの探しに必要な網やかごなど 学校：(児童に) 帽子、水筒、着替え、動きやすい靴、靴下の替え		
気を付けること (危険回避にむけて)	危険生物(ハチやへび)がいる可能性もある森の中につき、指導者が伝える安全についての話を、児童は守るようにする。		
講師の名前：	藤村哲 他1名(調整中)		
講師料：			
材料費等：			
支払い方法：			
保険の確認：	傷害/賠償		
マスコミ取材：	可	<input checked="" type="radio"/>	不可
写真撮影と使用許可：	撮影者		
	使用方法 ・学習報告(WEB掲載あり) ・団体WEB ・その他()		
(打合せで許可を得た写真と目的以外の使用はしません。学習報告はeeネットの実践例として報告書等に使用されます。)	使用できる写真(例・個人が特定できないもの・担任の許可を得たもの)		
	確認方法		
備考：			
(雨天の場合、その他配慮が必要な事等)	小雨の場合は実施予定、直前に延期(9/24)を検討		

海洋教育支援事業実施報告書

授 業 名	「いきもの探しと観察及び環境教育講座」
実施学校名	松本市立安曇小学校
実施学年、学級 参加人数	1・2年生6名
担当者	片桐義和 宮尾駿
実施日（期間）	令和元年9月12日
講師名	藤村哲さん
実施概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 小学校から現地まで公用車で向かった。 2. みんなのゆめの森について説明を受けた。 3. みんなのゆめの森でいきもの探し&観察を行った。 4. 児童たちは講師の方へ感想を話した。 5. 公用車で小学校まで戻った。
実施状況 (授業風景)	<p>現地に到着して準備</p>  <p>いきもの観察風景</p> 

実施状況
(授業風景)

講師の方と



終わりの会・感想記入



授業について

記 入 者

片桐 義和

1 授業を通しての子どもたちの反応、感想等

- 小さな川の中で虫をつかまえていたけど、最初は全然捕まえられませんでした。
- 石を網に入れて、石を洗えばくっついてる虫が捕まえることができました。
- 水の中にはカゲロウみたいな生き物がいました。もっとたくさん遊びたかったです。でもとても楽しかったです。
- 水の中の石や土の中のところに虫がいました。ウーパールーパーみたいな虫やエビみたいな虫、クモ見たいなのもいました。たくさん見つけられて楽しかったです。
- 次はもうちょっと大きい虫もつかまえてみたいと思いました。

2 先生方の感想、要望等

子ども達がいきいきといきものに触れていて良かった。
低学年なので、知識よりもまずはいきもの（動物も植物も）に触れてみることや、探して見つける喜びを持ってもらえるように促したことが効果を生んだように感じている。

海洋教育支援事業実施報告書

授 業 名	自然体感プログラム
実施学校名	松本市立安曇小学校
実施学年、学級、参加人数	1・2年生 6名
担当者	片桐義和 宮尾俊
実施日（期間）	令和元年10月23日
講師名	山田 勇 山田 直美
実施概要	<ul style="list-style-type: none"> ・校庭の周りで動植物に関わるフィールドビンゴを行い、当てはまるものを探し歩いた。 ・拡大鏡を使ってフィールドビンゴで見つけたものや近くにある植物や虫を観察した。 ・指定された色の自然物を探し歩いた。 ・自然物を使った万華鏡を作った。
実施状況 (授業風景)	<div style="text-align: center;">  <p>・フィールドビンゴで色々なものを探そう</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>・拡大鏡で小さなものを観察しよう</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>・同じ色の自然物を探そう</p> </div>



・色々入れて万華鏡を作ろう

記 入 者

片 桐 義 和

授業について

1 授業を通しての子どもたちの反応、感想等

- ・はじめはフィールドビンゴに当てはまるものを見つけるのに苦労していましたが段々と積極的に探し歩いて見つけるようになってきました。また、触ったり、手に取ったりする姿も段々と見られるようになってきて時間が経つにつれて近くの自然と触れ合うことが増えているようでした。
- ・同じ色の自然物を見つけることがとても大変だった。特に、緑色と全く同じ色を見つけるのが1番大変でした。
- ・万華鏡に花や葉っぱを入れたら、かわいい模様になったり、おもしろい模様になったり、不思議な模様になったりしました。ピンクの花を入れたらきれいな模様ことができました。

2 先生方の感想、要望等

- ・子どもたちの視野が段々と狭まっていき小さなものを見つける目になっていくのを感じました。普段授業で使っている校庭の脇で小さな虫がたくさんいたり、きれいな植物があったりすることに気づくことができました。今回の活動をすることで休み時間などに校庭の周りで自然と触れ合いながら遊ぶ活動に発展して行ってほしいと感じる。

3 その他


2019年度 海洋教育支援事業 打合せシート



※下記の項目を参考に打合せをして下さい。打合せ終了後、記入済みのシートをFAX(0263-86-8739)又はメール

打合せ日時：	令和元年 10 月 10日	場所：	安曇小学校 視聴覚室
打合せをした人：	学校 2年 片桐先生 1年 宮尾先生		
	団体 リトルピークス EE 桐原		
支援をする団体の名前：	リトルピークス	連絡先：	93-1243
実施する学校の名前：	安曇小学校	連絡先：	0263-94-2234 片桐先生
プログラム名：	ラフトピクニック（水殿ダム湖）		
支援してほしい内容 <small>（教えてほしいこと、先生の願い）</small>	<ul style="list-style-type: none"> ・旧国道跡をめぐる ・ラフトピクニック ・水辺安全講習会 		
学年・クラス：	5年 6年	人数：	8人+先生3人 担任（代表）：横山先生、早淵先生、横山校長
活動する日と時間：	10月23日（水）3, 4限 8：45～11：45		
講師集合時間：	8：30	講師集合場所：	安曇小
活動する場所：	水殿ダム		
活動の際の児童生徒の服装等：	ウェットスーツ、PFD、ヘルメット、沢足袋		
大まかな活動内容：	ふれあいダム広場～大日川発電所までのラフトボート体験		
当日までにしておくこと： <small>（事前指導）</small>	団体 下見、機材準備	学校	-
当日準備する物：	団体 機材一式、防水カメラ1台	学校	水着、化繊のシャツ、サイズ表
気を付けること： <small>（危険回避にむけて）</small>	下見の徹底 連絡体制の構築		
講師の名前：	小峰 邦良、関谷 健司、笠松 学		
講師料：			
材料費等：			
支払い方法：			
保険の確認：	傷害／賠償 学校スポーツ保険		
マスコミ取材：	<input checked="" type="radio"/> 可	<input type="radio"/> 不可	
写真撮影と使用許可：	撮影者 学校		
<small>（打合せで許可を得た写真と目的以外の使用はしません。学習報告はeeネットの実践例として報告書等に使用されます。）</small>	使用方法	<ul style="list-style-type: none"> ・学習報告（WEB掲載あり） ・団体WEB ・その他（ ） 	
	使用できる写真	（例・個人が特定できないもの・担任の許可を得たもの）	
	確認方法		
備考：	小雨決行、大雨延期10/30（水）8：45～11：45		
<small>（雨天の場合、その他配慮が必要な事等）</small>			

海洋教育 事業実施報告書

授 業 名	水殿ダム ラフトピクニック	
実施学校名	松本市立安曇小学校	
実施学年、学級、参加人数	5 学年 4 名、6 学年 4 名、計 8 名	
担当者	5 学年担任：早淵 明子、6 学年担任：横山 亨司	
実施日（期間）	10 月 23 日（水）	
講師名	合同会社リトルピークス（代表：小峰邦良さん）	
実施概要	<p>①ゴムボートを膨らませ、川へ運び込んだ。消防が台風19号で浸水した地域への救助用ボートも同様のボートが使用されている。エンジン付きボートとは違い、スクリューが故障することがないことから、近年活用されている話などを聞いた。</p> <p>②ボートを漕ぐ練習。前進、後進のオールの操作方法を学ぶ。また、転覆したときを想定してボートからダムへ飛び込んで、ボートへ戻る体験をする。</p> <p>③水殿ダムから奈川ダムまで約2kmをボートで漕いでいく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・無人島に行き、岩場から飛び込む。 ・滝が流れ落ちるところまで行き、滝の落ちる水を浴びる。 ・流木のあるところでは、流木の上に乗る。 ・チームで、ボートレースをする。 <p>④ダムに沈んだ旧国道跡を見に行く。車一台通れるくらいの細い道で、途中から水の底に沈んでいた。自分たちが日頃使っている拡張された国道は、ダム建設の条件だということを知った。</p>	
実施状況 (授業風景)		<p>ボートを自分たちで膨らませています。みんなで協力して、2台のボートを膨らませました。</p> <p>膨らませながら、台風19号の浸水で救助ボートを消防などへ貸し出したこともあることを教えてもらいました。</p>
		<p>2kmの距離をボートで漕ぎます。初めは楽しいだけだったけれど、漕ぎ続けていると疲れてしまい、ガイドの方がオール一本で漕いでくれ、プロの技も見せてもらいました。</p>



流木に子どもたちが飛び移っている様子です。流木はつるつるして、くるくる回るので、必死に捕まっています。この後上手に乗れて、流木の上を歩くことも出来ました。



これはダムからしか見えない幻の滝だそうです。10mくらい高いところから流れ落ちている滝の下へボートで向かっています。水の逆流で辿り付くのも大変だったけれど、それ以上に滝の水が強くて冷たくて大変でした。



旧国道の様子です。道がダムの水底に沈んでしまっている様子を見ました。

記入者

早淵 明子

授業について

1 授業を通しての子どもたちの反応、感想等

- ・ダムに入ったことがなく、ふつう入れるところではないので、とても貴重な体験になった。
- ・ボートを漕ぐのは大変だったけれど、みんなで力を合わせたからレースにも勝てたし、とても楽しかった。
- ・ダムのことなんて考えたことがなかったけれど、ダムの下には昔家があったのだと知った。

2 先生方の感想、要望等

ダムのラフトピクニックは12年間かけてリトルピークスさんが交渉して、今年から実施できるようになったと聞いた。安曇には、こんなに豊かな自然があり、地元の子どもたちすら知らない魅力がまだまだたくさんあることを、彼らも体験を通して知り、地域への愛情や誇りに繋がった。

楽しさだけでなく、ダムの歴史についても、知る機会がない中で、今回ダムについて子どもたちが関心を向けられたことは今後の学習にも生きてくると思われる。

2019年度 海洋教育支援事業 打合せシート



※下記の項目を参考に打合せをして下さい。打合せ終了後、記入済みのシートをFAX(0263-86-8739)又はメール(ecoconet@gominetnagano.jp)で中信地区環境教育NW事務局に送って下さい。

打合せ日時：2019年10月9日	場所：安曇小学校 校長室、梓川川原
打合せをした人：	学校 横山先生、早淵先生、小池先生、桑山先生
	団体 原山先生 EE 中林
支援をする団体の名前：	信州大学 原山智先生
	連絡先： -
実施する学校の名前：	安曇小学校
	連絡先：94-2234
プログラム名：	梓川の成り立ち
支援してほしい内容	梓川と火山、温泉の関係を、川原の観察から教えてほしい。
<small>(教えてほしいこと、先生の願い)</small>	学年ごとの学習目標：3年・いろいろな石があることを知る。4年・石のでき方を理解できたらいい。 5年・由来まで分かってほしい。6年・火山や地形との関係を理解し、災害学習にもつながるといい。
学年・クラス：	3年生5人、4年生2人、5年生4人、6年生4人 担任(代表)：横山先生(6年)
活動する日と時間：	10月25日(金) 10:45~12:20
講師集合時間：	10:30
	講師集合場所：校長室
活動する場所：	①教室(10:45~) → ②川原(11:00~11:50) → ③教室(12:00~12:20)
活動の際の児童生徒の服装等：	運動着、紅白帽子、軍手
大まかな活動内容：	①教室で地図を見ながら火山、温泉、梓川、学校の位置関係を確認。そこから来た石があることを知る。 ②川原で石を集め、種類別に分ける。山からだけではなく、海から来た石があることに気づく。 ③長い時間をかけて地形ができてきたこと、石を見るとそれが判ることなどを話していただく。
当日までにしておくこと：	団体
<small>(事前指導)</small>	学校 地図の用意、釘
当日準備する物：	団体
	学校 川原には手ぶらで行く。教室ではノート
気を付けること：	雨やダム放流等で増水している場合は、奥の方の川原まで行かずに
<small>(危険回避にむけて)</small>	手前の小石の多い場所で実施する。
講師の名前：	原山 智(さとる) 先生
講師料：	
材料費等：	特に無し
支払い方法：	
保険の確認：	傷害/賠償 学校はスポーツ保険
マスコミ取材：	可
写真撮影と使用許可：	撮影者 先生のみ
	使用方法 ・学習報告(WEB掲載あり)
<small>(打合せで許可を得た写真と目的以外の使用はしません。学習報告はeeネットの実践例として報告書等に使用されます。)</small>	使用できる写真：担任の許可を得たもの
	確認方法
備考：	少雨決行。大雨の場合は別日を再調整。
<small>(雨天の場合、その他配慮が必要な事等)</small>	

海洋教育 実施報告書

授 業 名	上高地学習「梓川の成り立ち～石は記憶のUSB～」
実施学校名	松本市立安曇小学校
実施学年、学級、参加人数	小学3年生5名 4年生2名 5年生4名 6年生4名 計 15名
担当者	片桐 義和
実施日（期間）	11月8日（金）
講師名	信州大学学術研究院教授 信州大学山岳科学研究所副所長 原山智先生
実施概要	教室で地質図を見ながら火山、温泉、梓川、学校の位置関係を確認した後に、実際に河原に石調べに行き、種類別に石を分けることで、山からだけではなく海から来た石があることや長い時間をかけて地形ができてきたことに気付く。
実施状況 (授業風景)	<div style="display: flex; align-items: flex-start;">  <div style="margin-left: 10px;"> <p>視聴覚室にて、地質図を使い、安曇地区の地盤はいろんな地質が混ざり合っていることを確認した。</p> </div> </div> <div style="display: flex; align-items: flex-start; margin-top: 10px;">  <div style="margin-left: 10px;"> <p>自分が気になる石について個別に教えていただいた。</p> </div> </div>



重たい石も原山先生の所まで盛っていく児童の様子。



児童の集めてきた石は、分類できることを教えていただいた。

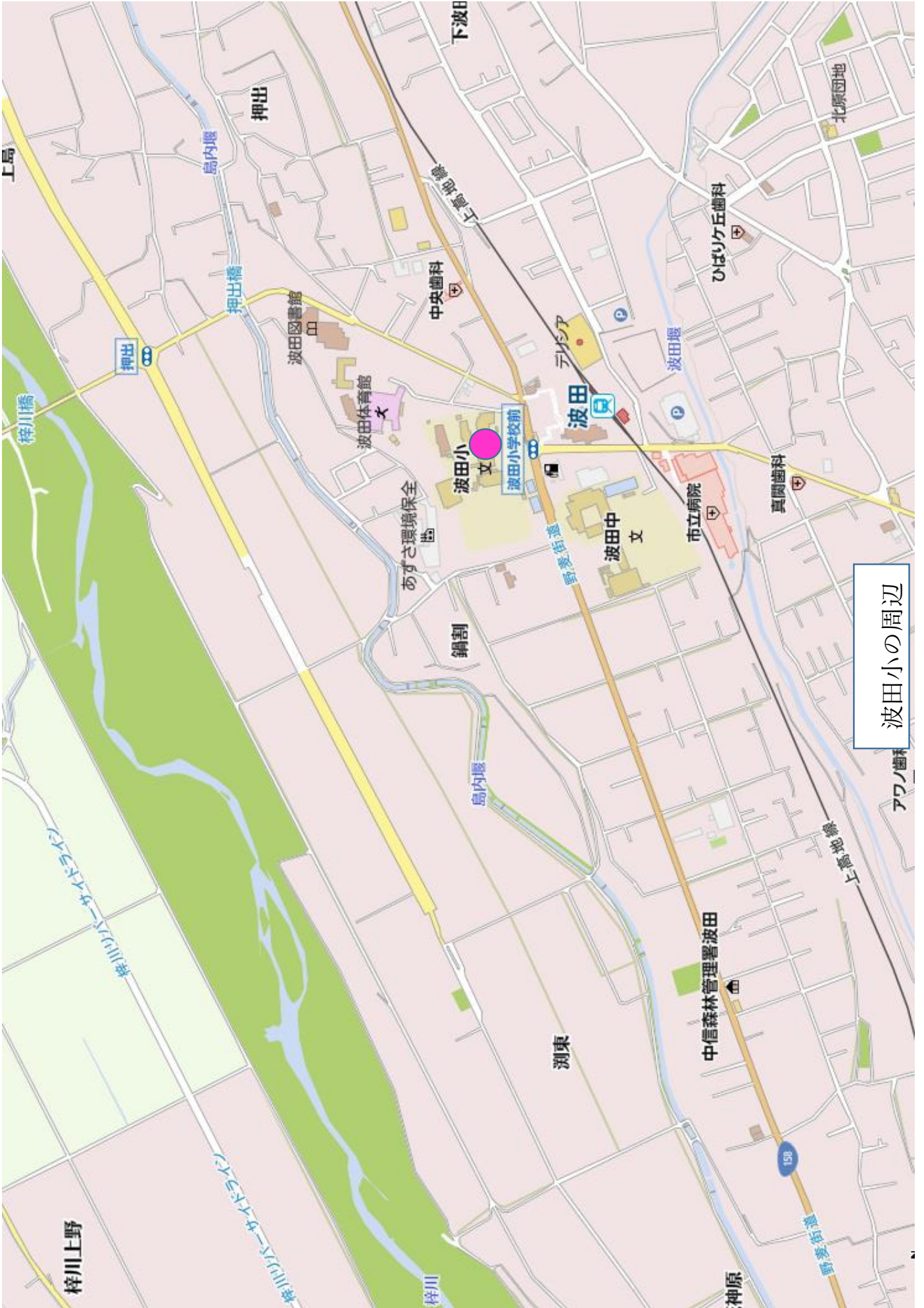
	<p>記 入 者</p>	<p>桑山 美冴</p>
<p>授業について</p>	<p>1 授業を通しての子どもたちの反応、感想等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今まで石には興味がなかったが興味が湧いてきた。 ・チャートの硬さに驚いた。 ・次は犀川の石に何があるかを調べたい。 ・石を調べればいろんなこと（どの時代、どうやってできたか）が分かる。 <p>2 先生方の感想、要望等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童は自分の気になる石を積極的に原山先生の所まで持ってきて、その石がどこでどうやってできたのかを教えてもらい、とても満足した様子であった。 ・砂岩や泥岩などの堆積岩は太古の海の中ででき、それが隆起して現在は陸地にあることなどを児童が理解するには、お話だけでなく視覚的な資料も必要に感じた。 <p>3 その他</p>	

海洋教育 体験活動実施支援（安全管理）報告書

実施日時	令和元 年 11月 8 日 10時45分～
実施団体	信州大学 原山智先生
実施校・学年・組	安曇小学校 3年生5人 4年生2人 6年生4人
安全管理担当者 (EE ネット)	日野谷 則男、中林 直子
記録者	日野谷 則男
実施概要	<p>実施プログラム（名） 梓川の成り立ち</p> <p>実施場所 安曇小学校と河原</p> <p>主な内容 ①学校近くの河原の位置を知る。歴史：ジュラル紀の石等 ②河原で石の種類、生成を知る ③まとめ学習 石は地球の成り立ちを記録している。</p>
講師の感想	<ul style="list-style-type: none"> ・ 石は話かけても答えてくれないが、地球の成り立ちを語りかけてくれることに少しでも興味・関心がもてれば・・・ ・ 疑問や好奇心を持つことは理科への関心の基本となる、そういう気持ちをもって欲しい。 ・ 山を学ぶことは海を学ぶことにつながる。
記録者の感想	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校近くに多くの種類の石があり、足を踏み入れ易く自然の豊かさが感じられる場所の河原があることは学習者にとって恵まれている環境であることを感じる。 ・ 講師の先生の的確な指導や助言で子供達は石に興味をもちいろいろな石を集め種類や生成に関心をよせていた。 ・ ちょうど海の泥岩とマグマ（花崗岩）両方を持つ石が見つかり、石から地球の歴史を知る話につながった感がある。 ・ 焼岳噴火によると思われる火山岩や海底火山による（白骨温泉にもよく見られる） ・ サンゴ礁の石灰岩との対比等がより興味深く学習する場面となっていた。 ・ 河原に非常に硬い岩石チャートもあり、海底に堆積していた姿が思い起こせる要素があり、発見して喜ぶ生徒もいた。 ・ 自然石に混ざってブロック等の人工石もあり、自然との対比も面白く感じられた。 ・ 更に石を割ることにより、複雑な模様や金属が見えてきてより深い学習につながっていくことを感じた。 ・ 石を調べる事により地球の歴史物語を知ることになるという講師の話は夢があって子供達の心をゆさぶる感がある。
その他 気付いた事等	

海洋教育 実施記録

波田小学校



波田小の周辺

海洋教育 PS 体験活動年間計画打合せ報告

日時：2019. 4. 9 17:00～

場所：波田小学校

出席者：【学校】玉水教頭先生、百瀬綾乃先生

【ee ネット】桐原さん、みど里さん、日野谷先生、中澤先生、中林

1. 学校の現状

- ・ 4年生で波田堰の学習を行っており、地元の土地改良区の資料をいただいて波田堰マップを作る等の学習を積み上げてきている。
- ・ 堰の水の利用して田植えをし、お米を作る学習を5年でおこなっている。
- ・ この流れを変えずに海洋教育につなげたい。
- ・ 臨海学習で5年生が日間賀島に行っているが、どちらかというとも皆で過ごすことが中心で、勉強をするという感じは薄い。地引網体験などしている。
- ・ 学年全体で同じことやるのか、クラスごとになるのか、その辺りのことも未だはっきりしていない。4クラスになるか5クラスになるかも未定。
- ・ 海洋教育の研究部会というのが設置される。

2. 検討

- ・ 堰の学習～米作りという流れはあるが、つながりがあまり明確とは言えない。
- ・ 3年生のうち楽しみながら川を知る体験をし、4年の堰の学習や、5年の臨海学習につなぐ。体験～堰～農業～水の循環～海 という流れで学習につながりができるといい。
- ・ 波田の特徴としては スイカ、もも、リンゴ等の農業が盛ん。河岸段丘という地形(水はけ)や気候の影響と思われるが、はっきりしたことは分からない。
- ・ マレットゴルフ場の奥に、水辺に親しめるポイントがあり、地元の団体が植物観察や蝶(ジャコウアゲハ)の観察を行っている。
- ・ 波田の「えんどっこ」という団体が、毎年梓川で生き物観察を継続している。
- ・ 竜島温泉付近もポイントになりそう
- ・ 海に行った時に「川とは違うな」と感じられるような体験を積んでおくと、何か気付けることがあるかも
- ・ 川下りが可能であれば、川を知る良い体験になる。

3. 今後の予定

- ・とりあえず今年度は1年目として3年生を中心に、川に親しむ活動を行う。2年目は4年生の堰学習に、3年目は5年生の臨海学習に繋げていく。
- ・地元で現在行われている観察会や体験会等があれば、その場所を使って学習を共有し、深めていく可能性を検討する。
- ・堰学習のどこに海につながる視点があるか、学校から資料をいただいて ee ネットでも検討する。それをヒントに3年生の体験学習の方針を検討する。
- ・3年生が楽しめて、且つ、4年の堰（農業）学習や、5年の臨海学習につながるような活動があるか ee ネットでも検討し情報提供する。
- ・メールで情報交換をする。学校からは現在ある波田の情報を、ee ネットからは体験活動の情報を出しながら、4月にはある程度の方角が見えるようにする。


2019年度 海洋教育支援事業 打合せシート



※下記の項目を参考に打合せをして下さい。打合せ終了後、記入済みのシートをFAX(0263-86-8739)又はメール(ecoconet@gominetnagano.jp)で中信地区環境教育NW事務局に送って下さい。

打合せ日時：2019年 7月 8日	場所：波田小会議室
打合せをした人： 学校 海洋研究G：印出先生、松田先生 3学年：宮崎先生、百瀬綾乃先生	団体 小峰さん EE 中林
支援をする団体の名前：リトルピークス	連絡先：93-1243
実施する学校の名前：波田小学校	連絡先：92-2044
プログラム名：川の果てまで行ってQたんけんたい（大河の一滴）	
支援してほしい内容 <small>（教えてほしいこと、先生の願い）</small>	梓川探検当日への期待を盛り上げる。たんけんに行きたい気持ちになる。
学年・クラス：3年 人数：生徒144名+親 担任（代表）：宮崎先生	
活動する日と時間：9月11日 14:00~14:45	
講師集合時間：13:30 事務室（2F）	
活動する場所：体育館又は講堂	
活動の際の児童生徒の服装等：私服	
大まかな活動内容：	スライドショー30分、質問タイム15分
当日までにしておくこと： 団体 準備 <small>（事前指導）</small>	学校 DVD確認、教材研究→連絡
当日準備する物：	団体 学校 プロジェクター、スクリーン。マイク。PC（DVDデータを落とし込んでおく）
気を付けること： <small>（危険回避にむけて）</small>	
講師の名前：	小峰邦良
講師料：	5000×1人×1H=5000円 海洋
材料費等：	無し
支払い方法：	松本市の請求書
保険の確認：	傷害／賠償 OK
マスコミ取材：	可
写真撮影と使用許可：	撮影者・・・先生のみ 使用方法 ・学習報告（WEB掲載あり） ・その他（ ） 使用できる写真・・・報告書に使われたものだけ
備考：	<small>（雨天の場合、その他配慮が必要な事等）</small>

海洋教育実施報告書

授業名	大河の一滴
実施学校名	松本市立波田小学校
実施学年・参加人数	3学年 137人
実施日	2019年9月11日(水)
実施概要	上高地源流見学に向けて、リトルピークスの小峰さんに「大河の一滴」の授業をしていただいた。
実施状況	 <p>川の水がいったいどこからくるのかということを具体的に話していただいた。この事前学習の前に、子どもたちに地図や辞書などで調べさせていたのだが、その時には、「湧き水だよ」「雪とけ水もそうかな？」などという予想を立てていたため、小峰さんの話を熱心に聞いている子が多くいた。</p>
授業について	<p>1 授業を通しての子どもたちの反応、感想など 以下、子どもたちの感想です。</p> <p>①今日、5時間目にさんかんびでそごうをやりました。あずさ川にくわしい人がきてくれました。いろいろな川のことを話してくれました。雪がとけて山からいろいろなばしょにうごいて川になることを知ってよかったです。</p> <p>②今日、5時間目にさんかん日がありました。さらに、くわしい人も来てくれて、いろいろなことを聞きました。あずさ川は、まず冬につもった雪がやりがたけから1てき1てきしみこんで、ゆっくり大きい川になっている事が分かりました。</p> <p>2. 先生方の感想、要望など 事前の打ち合わせがもう少し具体的にできるとよかったが、やはり詳しい方に話をさせていただくのが、子どもたちにとってもとてもいいと思った。</p>

海洋教育 体験活動実施支援（安全管理）報告書

実施日時	令和元年9月11日 午後2時～4時
実施団体	リトルピークス
実施校・学年・組	波田小学校3年 4クラス
安全管理担当者 (EE ネット)	日野谷 則男
記録者	日野谷 則男
実施概要	<p>実施プログラム（名） 川の果てまで行ってQ探検隊（事前学習）</p> <p>実施場所 波田小学校 体育館</p> <p>主な内容 パワーポイントでのスライドショー 梓川大河の一滴冒険 一滴の水 命の水の物語 65cm雪の旅・梓川を形成していく</p>
講師の感想	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子供が一生懸命聞いてくれて良かった。（質問する子も多くいた） ・ 当日が楽しみだ。 ・ 川で泳ぐ経験のない子が多い 危険はあるが多くの子供たちに自然を経験させたい。 ・ 本当はおぜん立てするのではなく自分達で準備等を含めて苦労する経験が大切である
記録者の感想	<ul style="list-style-type: none"> ・ 梓川「大河の一滴」の冒険のテーマで、山の一滴の水（雪）が集まり小川となり、その一滴が山の生活を潤わせて、ダムを通過して河川となっていく話は、ストーリー性があってわかり易い。 ・ 「川は自然、文化人の心を支え血管の役割を果たす」「上流に住んでいる人、下流に住んでいる人の心をつなぐ」「梓川に響け子供の声」等講師の話にはそれぞれ心に響くものがある。（子供達にも響くであろう） ・ 河川の実態、人工物の恐怖、毒草、外来種が多い等を話していただいた。 ・ 子供達の質問「梓川と他の川の違い？」「川にどうしてゴミを捨てるのか」等環境に関わる質問もあり、学習の成果が出てきている感があった。
その他 気付いた事等	<ul style="list-style-type: none"> ・ PTA 参観日とタイアップされて、保護者も多く参加していた。 環境、自然等の学習や取組の様子をアピールする面で良かったと思われる。





2019年度 海洋教育支援事業 打合せシート



※下記の項目を参考に打合せをして下さい。打合せ終了後、記入済みのシートをFAX(0263-86-8739)又はメール(ecoconet@gominetnagano.jp)で中信地区環境教育NW事務局に送って下さい。

打合せ日時：	2019年 7月 8日	場所：	波田小会議室
打合せをした人：	学校 海洋研究G：印出先生、松田先生 団体 小峰さん EE 中林	3学年：	宮崎先生、百瀬綾乃先生
支援をする団体の名前：	リトルピークス	連絡先：	93-1243
実施する学校の名前：	波田小学校	連絡先：	92-2044
プログラム名：	川の果てまで行ってQたんけんたい		
支援してほしい内容 (教えてほしいこと、先生の願い)	源流を直接体験する。梓川がそこから始まることを確認。 梓川がどこから流れて来るか知る。		
学年・クラス：	3年	人数：	36人×4クラス
		担任(代表)：	宮崎先生
活動する日と時間：	9月20日/予備9月24日 8:30~15:30 少雨決行(前日12時頃、学校側で判断)		
講師集合時間：	8:15 波田支所駐車場		
活動する場所：	波田小 ~ 上高地清水川		
活動の際の児童生徒の服装等：	運動着(半そで、半ズボン 赤白帽子 長袖、長ズボン) 歩きやすい靴		
大まかな活動内容：	8:30出発→9:00頭首工着 9:45頭首工発 →10:00風穴の里着~10:15ふれあい広場 11:00風穴の里発→帝国ホテル前着12:00~12:30梓川で昼食~13:15徒歩出発 →14:00清水川着(バスはターミナルで待機) 14:30~バス発~15:30学校着		
当日までにしておくこと (事前指導)	団体 東電(頭首工)・風穴の里へ連絡、清水川下見・・・小峰さん 学校 下見		
当日準備する物：	団体 ガイド装備 学校 水筒、お弁当、タオル、雨具、カップ、ゴミ袋、探検バッグ、デジカメ、救急バッグ		
気を付けること (危険回避にむけて)	時間配分、車酔い、車道を歩く際の安全注意		
講師の名前：	リトルピークス(小峰さん含め4名 各クラスバス1台に1名ずつのガイド)		
講師料：	[(5000円×4H×1人)]×4クラス = 80,000円		
材料費等：	無し		
支払い方法：	海洋は松本市の請求書		
保険の確認：	傷害/賠償 OK		
マスコミ取材：	可		
写真撮影と使用許可：	撮影者・・・先生のみ 使用方法 ・学習報告(WEB掲載あり) ・その他() 使用できる写真・・・報告書に使われたものだけ		
備考：	45席の大型バス4台を市で手配。報告書は各クラスで作っていただく。 (雨天の場合、その他配慮が必要な事等) 1組：宮崎正資(みやざき まさし) 2組：百瀬綾乃(ももせ あやの) 3組：小平勇喜(こたいら ゆうき) 4組：小岩井直子(こいわい なおこ)		

海洋教育支援事業実施報告書

授業名	川の果てまで行ってQ探検隊（上高地源流見学）
実施学校名	松本市立波田小学校
実施学年 参加人数	3 学年 144 人
実施日	2019 年 9 月 20 日（金）
実施概要	頭首工見学、水殿ダム見学、上高地見学（清水川）
実施状況	<div style="display: flex; flex-direction: column; gap: 10px;"> <div style="display: flex; align-items: flex-start;">  <div style="margin-left: 10px;"> <p>頭首工を見学した。 梓川上流の水が、下流の方へ下りてきて、この頭首工で、波田地区への用水、梓川の本流へと分けて水を流している。波田地区でおいしいスイカや米、りんごなどができるのは、この頭首工での役目が大きいことが子どもたちも理解できた様子だった。 「頭首工に感謝！」「梓川に感謝！」という声も上がった。</p> </div> </div> <div style="display: flex; align-items: flex-start;">  <div style="margin-left: 10px;"> <p>頭首工やダムなどの梓川に関連する場所の見学行うことで、梓川の流れが、私たちの生活の中でどのように生かされているのかを学ぶことができた。</p> </div> </div> <div style="display: flex; align-items: flex-start;">  <div style="margin-left: 10px;"> <p>水殿ダムを見学した。 ダムの下流側と上流側に手を出し、風の流れが大きく違うことに驚いた様子の子もたち。上流側と下流側に何度も手を出し、ガイドの話に耳を傾けていた。また、ダムを歩いて往復することでその大きさを実感することができた。</p> </div> </div> <div style="display: flex; align-items: flex-start;">  </div> </div>

実施状況



梓川上流、源流付近の様子を確認を行った。

主には、波田を流れる梓川との川の流れのきれいさ、早さ、冷たさ、流域面積の大きさなどを比較した。上流と下流との比較を通して、梓川への理解を深めた。



学校の近くに流れている梓川は、どうやってはじまっているんだろうと疑問を持っていた子どもたちは、清水川（梓川の源流）が湧き出てくるポイントにいくと耳を澄まして、音を感じていた。



水が湧き出てくる音を感じて、ここが梓川のはじまりなんだということを子どもたちは実感していた。



河童橋近くの清水川の水を口にふくんだ。子どもたちは、近くを流れる梓川とは、水の透明度や水草の美しさが全く違うことに気がついた。

授業について	記入者	宮崎正資、百瀬綾乃、小平勇喜、小岩井直子
<p>1 授業を通しての子どもたちの反応、感想など</p> <p>【3-1】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 川の水は、ほぼ透明で、下にある石が全部見えました。 ・ 川を上っていったら、どんどん水がきれいになっていったのが不思議だった。 ・ くつ下をぬいで川に入ったら、めちゃくちゃつめたかったです。 ・ 清水川は、こんなにいい自然で、よごさないようにしたいなと思いました。 ・ また、家族といっしょに行ってみたいです。 <p>【3-2】</p> <p>梓川上流と下流では、どんな違いがあるのかに興味を持った子どもたちは、温度計や石、ペットボトルを持ち込んで調査をしました。梓川上流の川の冷たさ、透明度に非常に驚いていました。また、石を調査した子どもたちは、石の色に注目して、下流の石との違いを感じていました。</p> <p>子どもたちがずっと疑問を持っていたことが、今回の上高地源流見学ではっきりしたので、子どもたちも大変満足しているようでした。実際に見て、触れて、感じることはとても大切だと思いました。</p> <p>【3-3】</p> <p>松本市には、手つかずの自然が残されていること、また、透きとおった透明度の高い源流を見ることで、この自然をずっと守っていききたいなと願う子どもたちが大勢いた。</p> <p>【3-4】</p> <p>源流に近づくことによって徐々に色を変え、透明度を増す梓川の川を目の当たりにして、川を大切にしていきたい、きれいにしていきたいという思いをもつ子がたくさんいました。</p> <p>2 先生方の感想、要望など</p> <p>【3-1】</p> <p>松本市教育委員会の海洋教育テーマ「地域協働による松本らしい『山・川・海をつなぐ環境教育』」を受け、3年：山、4年：川、5年：海という構想で、上高地学習を行いました。「最初は美しい</p>		

水で始まるんだ」という原体験が、できたのではないかと思います。

【3-2】

私たちだけでは伝えることのできない、上高地のよさや、山・川のことを詳しく教えていただいたのでよかったです。もう少し細かく内容を検討できればよかったですと思いました。子どもたちの考えを事前にお伝えできたらと思いました。

【3-3】

普通の授業など、机上では学び得られないものが体験の中にはある。実際に、見て、触って、感じて学ぶことは子どもたちの学びとしては非常に価値の高い物だと考える。今後、この体験を通じて学んだことを生かす事後指導を充実させていきたい。

【3-4】

ガイドの方に案内してもらえたことで、担任では説明できない上高地や川のことについて子どもたちが知ることができ、ありがたかったです。

海洋教育 体験活動実施支援（安全管理）報告書

実施日時	令和元年9月20日 午前8時～
実施団体	リトルピークス
実施校・学年・組	波田小学校 3年4クラス 144名
安全管理担当者 (EE ネット)	日野谷 則夫、青木 敏和
記録者	日野谷 則男
実施概要	<p>実施プログラム（名） 川の果てまで行ってQ探検隊</p> <p>実施場所 頭首工～上高地</p> <p>主な内容 ・ 梓川の源流を求めて 頭首工、安曇3ダムの一つ水殿ダム、上高地（穂高橋、清水）を巡り川の学習を深めていく。</p>
講師の感想	<ul style="list-style-type: none"> ・ 下流から源流へと通してポイント、ポイントの学習ができたことは子供達にとって（川学習）よかったのではないかな。 ・ 上高地を楽しめ質問も鋭いものがあり有効な一日だったと思われる。 ・ 外にでて自然体験のワクワクを広めていきたい。川に入って流れを感じ取り楽しむことが川への抵抗がなくなり好きになる、大事（大切）にできることにつながってくる。 ・ 上流 下流の関係がわかると風の流れを意識し海と川の関係にもつながってくる。 ・ 川学習や山を通して自分の身は自分で守る、仲間を大事にすることを学んでほしい。 ・ 自然が好きになり自然の循環するパワー、すごさを感じてほしい。 ・ 頭首工の所長さんの話を（市の配慮）聞いてよかった。
記録者の感想	<ul style="list-style-type: none"> ・ 梓川の流れを下流から上流（源流）に追っていく学習のプログラムは地元を走る連続性もあり子供達にとってもわかりやすく良かったと思われる。 ・ プログラム名「川の果てまで行ってQ…」は興味をそられ意識の流れとして事前学習が本番につながっていた学習展開である。 ・ ただ子供達一人一人の個の課題につながっているかは事前学習からどう本番につなげていくかにかかっている。 ・ ガイド（講師）の適切な説明は心を揺さぶる（海洋学習につながる）要素が多分に含まれていた。個の感じ方、メモの取り方いろいろであろうが、まとめ学習の場を設けしっかりふりかえさせたい。 ・ 上流と下流…川と農業 河岸段丘 ダム 川を好きになる意味 水の循環と歴史 自然を大切にする意味 波田地区を流れる梓川と住民生活の関わり、上高地を源流として新潟にも流れている ・ （海との関連）

その他 気付いた事等	<ul style="list-style-type: none">・ ガイドは経験と知識があり新年をもって自然と対峙する姿があり、語られる言葉は いきた学習につながる感がある。・ 又安全や行程の進め方に細かい配慮がうかがえた。・ クラスによってはつくガイドによって力量が異なる面を感じている教師がいる。今 後工夫していく必要はあるだろう。・ バス4台ガイドがクラス1名つく野外学習の機会を得た波田小の子ども達は幸せで あろう。このプログラム学習を今後の学習活動にいかしたい。
---------------	---